みんなの
ための
学校長会に

校長会HP

茨城県 学校長会広報

第256号
発行者
茨城県学校長会
会長　志賀　正章
事務局
〒311-1125
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
☎ 029－269－1300
FAX 029－269－1304

第４期中期教育ビジョン（第１年次）

特集　各部・各委員会の構想　新会員紹介

目次

○表紙写真に寄せて……1
○会長あいさつ……2
○令和五年度
　本年度の活動について……2
○特集「各部・各委員会の構想」…3
○特別寄稿「人材育成について」…4
○茨城県学校長会基本方針及び
　第四期中期教育ビジョン……7
○課題「ＡＩ時代を迎えても」…8
○市町村教育委員会と学校長会…9
○提言二題……10
○経営研究
　「創意と活力に満ちた学校経営」…11
○特集「新会員の抱負」……15
○再任会員名簿……30

一人一人が輝く学校を目指して

つくばみらい　陽光台小
長塚　和徳

本校は、全校児童一〇〇四名の大規模校で、児童の主体性を育む教育活動を進めています。朝自習では、自分の考えを表現できるように、言葉の時間を設定しています。また、中学校と連携し、オープンスクールで授業や部活動体験などを行っています。他にもＰＴＡと連携した秋祭りの開催、保護者ボランティアの学習サポート、青少年育成会と連携した連凧上げや陽光台の歴史を聞くお話会等、家庭や地域の協力を得ながら充実した体験活動を行っています。

教職員を守り育てる

茨城県学校長会
会長　志賀　正章
（水戸・常磐小）

四年ぶりに参集型で開催した総会では、校長としての職責を自覚し、県学校長会として結束を強めることができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

県学校長会では、平成二五年度以来、課題に対して三年間をかけて取り組む「中期教育ビジョン」を設定し、各年度末に評価・検証を行いながら次年度の活動につなぐという取組を三期にわたって継続してきました。

今年度からスタートする「第四期中期教育ビジョン」のテーマを「次世代を担う『人財』を育成し、新しい時代の学校教育を推進する」といたしました。

子供の抱える困難の多様化・複雑化に対応するため、中教審答申においても「新たな教師の学びの姿の実現」と「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成」が求められています。

各学校において、先生方が自分の仕事にやりがいと誇りをもち、それぞれの持ち味を活かしながら児童生徒への温かい指導ができるように、私たち校長が教職員を守り育てる姿勢を大切にしていきたいと思います。

本年度の活動の方向性

学校・家庭・地域がそれぞれの役割を十分に果たしながら、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた子供たちの育成に取り組む中、茨城県学校長会は、「理念も実践も兼ね備えた有言実行の教育専門家集団」として、教育の中心的な役割を担う組織としての自覚のもと、活動を推進していく。

学校において、私たち校長は、トップリーダーとして明確なビジョンを示し、具体的な実践と検証を重ねながら、創意と活力に満ちた学校経営に努め、学校からの教育改革を推進することで、県民の信頼と期待に応えなければならない。

茨城県学校長会は、教育基本法を踏まえ、先達が築いてきた精神と業績を継承するとともに、英知と情熱を結集して、基本方針と第４期中期教育ビジョンに示した今年度の活動目標の具現化に努める。

【令和５年度に向けて】

- □ **新型コロナ「５類」への移行に伴う転換期を迎え、今後の感染予防対策、学校行事等の実施方法、会議・研修のもち方等について見直しを行う。**
- □ **「令和の日本型学校教育」を一層推進していくため、教職員の資質向上を図る。**

教員の資質向上に係る国・県の動き

『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方（R4.12.19 中教審答申）
- □「新たな教師の学びの姿」の実現
- □ 多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成
- □ 教職員志願者の多様化や教師のライフサイクルの変化を踏まえた育成と安定的な確保

教師に求められる資質能力の柱（５項目に再整理）（R4.8.31 文部科学大臣指針）
- ①教職に必要な素養　②学習指導　③生徒指導
- ④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応　⑤ＩＣＴや情報・教育データの利活用

「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの構築
- □ 研修履歴を活用した「対話に基づく受講奨励」
- □ 改訂「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質向上に関する育成指標」(R5.2.24)に基づく教員の育成

【今年度の重点】

第４期中期教育ビジョン（令和５～７年度　３か年計画の１年次）

次世代を担う「人財」を育成し、新しい時代の学校教育を推進する

＜視点１＞　行政との連携	＜視点２＞　学校の取組
「人財」育成のための働きかけ ○教員免許更新制の発展的解消に伴う「新たな教師の学び」の実現に向けた仕組みの構築 ・大学等との連携 ○質の高い教育実現のための人的配置に向けた調査研究 ・小学校専科教員配置による成果と課題等 ○管理職・リーダー育成のための連携強化	**教職員の「人財」育成** ○教職員の資質向上のための校内研修の充実 ・学校の組織力向上のためのＯＪＴ研修 ・授業や校務へのＩＣＴの効果的な活用 ○教職員一人一人との対話に基づくキャリアステージに応じた研修の奨励 ・改訂「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質向上に関する育成指標」の活用

各部・各委員会の構想

小学校部会

転換期への対応と「人財」育成

部会長　志賀　正章（水戸・常磐小）

小学校部会の今年度の重点は、①コロナ感染症の五類移行に伴う転換期への対応　②教職員の「人財」育成の二点です。

①については、各学校において、学校行事等の内容や実施方法について再び検討しながら進めておられると思います。ねらいが十分達成できれば、内容の精選や時間短縮は、働き方改革にも有効な手立てとなります。

五月に本校で開催した運動会では、内容や開催方法を昨年度と大きく変更せず、参観者の人数制限を解除したところ、保護者に加えて祖父母の姿が多く見られました。「久しぶりに子供たちが活躍する姿を見ることができて元気をもらえた」という声がたくさん聞かれ、家庭や地域とつながることの大切さを実感しました。これまで見合わせてきた地域の方々とかかわる活動を通して学校から情報を発信していくことも必要だと思います。

②については、「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの実現に向けて、校長としての取組を始めていくことです。教員免許更新制が発展的解消となり、「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」という新たな取組が示されました。基本的な考えとして、「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質向上に関する育成指標」を踏まえ、教員が自らの学びの成果を振り返り、自らの成長を実感できるようにすること、蓄積された自らの学びを客観視して、さらに伸ばしたい分野・領域等を見出すことなどが挙げられています。校長は、自校の教員に対して受講奨励を含む適切な指導助言を行う立場になります。

各学校においては、校内研修のもち方を工夫し、先生方のキャリアステージに応じた指導技術の向上、諸問題への対応力の強化等を図っていく必要があります。また、ＩＣＴの活用については、これまでの実践と最適に組み合わせることで個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指すことが求められています。

十月に開催する学校長研究協議会で小学校部会はオンラインによるグループ協議を行います。①、②の視点から、各学校の取組状況を紹介し合い、今後に向けた課題等についてご協議いただきたいと思います。

中学校部会

課題解決に向けて力強く協働していく中学校部会

部会長　大芝　静香（水戸・第一中）

三年以上に渡るコロナ対応は、五類への移行により、感染対策をとりつつも、教育活動の幅が広がってきました。この間、ＧＩＧＡスクール構想は一気に進み端末を活用した学習活動が日常化するとともに、学校行事等の教育活動の見直しも積極的に行われました。これを契機に、元に戻すだけでなく新しい時代に向けて取り組む学校運営が求められます。学校には、多様化・深刻化する児童生徒の課題への対応、教員不足の解消や働き方改革、部活動の地域移行など、課題が山積しています。これらの課題解決に向けて、今後、校長、教職員が自ら資質向上に取り組み、力量向上を図る必要がより一層高まっています。

今年三月に中教審から「次期教育振興基本計画について」（答申）が示され、コンセプトや基本方針等が明示されました。それと前後して、県教委から「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質の向上に関する指標の改訂について」が示され、校長の役割と教職員の資質向上についてより明確化されました。また、部活動改革については、昨年十二月に部活動の運営方針の改訂が示され、生徒の多様なニーズを踏まえた環境整備、働き方改革の推進等に向け、段階的な地域移行や休日に部活動をする教員をゼロにする目標が示されております。

そのため、私たちは、今まで以上に明確なビジョンのもと、地域や保護者、教職員との合意形成を図りながら、確かなリーダーシップを発揮して、学校経営を推進していくことが求められています。その研修等の機会として、六月の関地区中山梨大会、十月の全日中大分大会等での他県等の校長と意見交換や協議、県教委や本会における研修や研究協議等を活用し、学校経営に生かしていただければと考えています。

校長は学校のリーダーとして次々発生する課題に直面し、決断を迫られる厳しい状況が続きます。中学校部会は、校長先生方との緊密な情報交換により悩みや方策を共有し、課題解決のために力強く協働していきたいと考えております。

特別寄稿

人材育成について

教育庁学校教育部義務教育課
副参事　山口　英司

猛威を振るっていたコロナ禍が収まりつつある中、今年度は、マスクを外しての始業式や入学式、授業や給食などが可能となりました。これまでの三年間、消毒作業や児童生徒の学びの保障の確保等、ていねいに対応いただきましたことに感謝申し上げます。

さて、コロナ禍や急激なＩＣＴ化等、学校が抱える課題が複雑化、多様化している中、これらの課題に的確に対応し、「すべての子どもの可能性を引き出す活力ある学校づくり」を進めるためには、教員一人一人の資質能力を一層高めるとともに、それらを最大限に発揮できる環境づくりが求められています。

県教育委員会では、本年二月に教職員に求められる資質能力について、「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質の向上に関する指標」を改訂し、次のように分類しました。

一　教職に必要な素養

二　児童生徒の主体的・対話的で深い学びを支える授業力

三　児童生徒を理解し支援する力

四　特別な配慮を必要とする児童生徒を支援する力

五　学年・学級の経営と学校の運営に関する力

さらに、「採用時」「形成期」「成長期」「発展・充実期」「貢献・深化期」に分け、それぞれの時期に応じて備わっていてほしい資質能力を具体的にお示ししたところです。これらの資質能力を育成するには、適切な人事評価や指導助言、研修やＯＪＴの推進を通した人材育成が必要です。

校長は、人材育成について大きな責任と役割を担っており、教員の自律的な成長を促すべき存在です。人材育成で重要な鍵は、教員自らの力で成長することができる職場であると言われています。文部科学省も、教員集団の持続的な成長に向けて、急激な変化に対応できるためには、教師の「学び」が組織的に行われるような環境づくりが重要であると謳っています。近年、大量退職に伴い若手教員が増え、年齢構成や経験年数に不均衡が生じている学校においては、特に、若手教員の育成を組織的、計画的、継続的に進めていくことが重要です。以前から言われておりますが、まずは、若手教員のがんばりを認め励まし、若手教員自身が学校組織の一員であるという所属感や同僚性を感じることができ、何でも相談できる風通しのよい職場環境づくりに尽力願います。さらに、若手教員の考え方やこれまでの経験・実績等について理解し、寄り添いながら、組織的、計画的なＯＪＴを通して、継続的に支援していただきますようお願いいたします。

そのためには、校長自身も、常に自己研鑽に努めることが大切です。そして、その校長の姿が、若手だけでなくすべての教員の「学ぶ」姿勢へとつながっていくことは言うまでもありません。

最後になりましたが、校長先生方におかれましては、将来を生き抜く児童生徒がよりよい学校教育活動を進めていくためには、人材育成が不可欠であることを再確認いただき、教員が自身の力を最大限に発揮できる学校づくりにご尽力いただきますよう、お願いいたします。

行財政

第四期中期教育ビジョンの具現化に向けて

委員長　蓮沼　邦彦

本委員会は、行財政上の諸問題に関する調査と研究を行い、「教育行政に関する要望書」を作成し、県学校長会として、県教育委員会教育長へ提出する活動を行います。

次世代を担う「人財」を育成し、新しい時代の学校教育を推進するためには、教職員の待遇改善による定数確保や「新たな教師の学び」の実現に向けた研修体制の構築、切れ目ない支援体制を図るための特別支援教育の充実、行政組織の各部署等から届く様々な学校への依頼の改善等、本委員会では現場の声を集約し、要望書へと反映させていくことが我々の責務と考えています。

今年度は、第四期中期教育ビジョン「三か年計画」の一年次になります。「令和の日本型学校教育」を一層推進していくため、教職員の資質向上を図る取組やＧＩＧＡスクール構想の更なる取組等を踏まえ、教育施策の改善と有効性が図れるよう要望活動を進めてまいります。

一　組織

委員長　蓮沼　邦彦（水・笠原中）
副委員長　増田　浩一（水・飯富小）
副委員長　朝日　広一（水・赤塚小）
幹　事　細谷　康之（水・酒門小）
同　松下由美子（水・千波小）
小委員会代表　髙柳　繁（ひ・市毛小）
同　菊池　隆史（古・名崎小）

二　活動内容

(一)　教育課題解決のための諸施策に関する調査研究

①すべての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びのために

②学校組織の充実と活性化を図るために

③充実した教職生活の実現のために

④本県教育の一層の充実・発展を図るための市町村当局への助言について

※全小・中・義務教育学校の校長と一部教諭を対象にアンケートを実施

(二)　県への要望

①全校長等のアンケート結果を分析し、要望書を作成し、要望活動を行う。

②義務教育課との合同検討会により、要望内容の明確化と進捗状況の確認を行う。

法制

「学校長必携（第三十七集）」の発行に向けて

委員長　鈴木宏一

本委員会は、学校運営上の法的問題に関する調査研究を行い、教職員の法制意識の向上と、円滑な学校経営に資することを目的としています。

本年度は、県内の校長先生からいただいた学校経営上の疑問等を集約・整理した「学校長必携（第三十七集）」の作成に向けて活動していきます。また、県教頭会とも連携し、本必携は、県教頭会「法制研修会記録」と合本し「学校運営のための法制問答集」として各学校等に配布します。

一　組織

委員長　鈴木　宏一（水・千波中）
副委員長　成井　英紀（潮・津知小）
同　藤井　周哉（玉・荒川沖小）
幹事　廣木　恒夫（ひ・外野小）
同　木村　真理（水・双葉台小）
小委員
同　生天目　剛史（久慈・袋田小）
同　黒澤　祐一（常大・世矢中）
同　人見　泰典（神・須田小）
同　菅澤　直美（稲郡・君原小）
同　横濱　元己（舌・古河一小）

二　活動内容

㈠「学校長必携（第三十七集版）」の発行
㈡「学校経営上の諸問題」の調査・研究

三　活動計画

㈠委員会（五月・二月）
・組織づくり
・活動内容及び事業計画の検討
・今年度事業反省
・次年度の活動計画の検討
㈡小委員会・ブロック別委員研修会（七月～二月）
・学校運営上の課題とその回答の検討
・「学校長必携（第三十七集）」編集作業
㈢教頭会法制部との連携による「学校運営のための法制問答集」の編集と発行
・学校経営上の諸問題について県教育庁学校教育部義務教育課管理主事による指導・助言

私たち教育公務員は、法によって職務すると同時に、法によって守られてもいます。児童生徒はもちろん、私たち教職員が安心して学校生活を送るためには、法の理解は必要です。根拠に基づく教育活動が遂行されるよう、また、今日的な課題により適切に対応するためには一層の調査研究の継続発展が大切です。本委員会の活動が、今後の学校経営に生かされるよう努めてまいります。

調査研究

次世代を担う「人財」を育成し、新しい時代の学校教育を推進するための調査活動

委員長　栗原和彦

本委員会は、教育における今日的課題等について県内各校の調査を行うことによって現状を把握し、県学校長会が課題解決に向けて提言・活動等を行うための資料として、調査結果を提供することを主な目的として活動しています。

今年度は「第４期中期教育ビジョン」の初年度であり、「行政との連携」「学校の取組」の二つの視点を大切にしながら、実効性のある「人財育成」に向けた研究を推進してまいります。

各調査の結果は、各学校の経営や業務の改善に生かせるように還元します。

また、各学校の「特色ある教育活動」への取組を調査し、相互に参考にできるように結果を公表し、各学校の教育活動や研究の改善、活性化の一助としていただく活動も行っていきます。

一　組織

委員長　栗原　和彦（本戸・河和田小）
副委員長　芳賀　俊英（白立・田尻小）
同　河野　貞夫（行方・麻生東小）
同　栗山　成孝（石岡・小桜小）
同　仲田　郁夫（八千代・中根小）
小委員
同　荘司　宏征（小美玉・鯨小）
同　佐川　拓（高萩・高萩小）
同　増形　岳（鹿島・豊津小）
同　大髙　純子（つくば・小野小）
同　小林　和彦（板東・生子東小）
幹事　田村　悟（本戸・下野小）
同　小森　真史（笠間・笠間三小）

二　活動内容

㈠今日的課題に関する調査の実施・分析
㈡「特色ある教育活動」の調査とＷｅｂページへの掲載
㈢勤務実態に関する調査の継続実施及び分析・考察
・十月における超過勤務時間数等の調査
㈣全連小・全日中への各種調査の協力等
・調査校の選定
・調査用紙等の集約と報告
・研究校便覧掲載校の推薦

※本年度も各種調査へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

広報

会員相互の交流の場に

委員長　齋田由加理

広報委員会は、会員相互の情報の共有化を図るとともに、学校現場で直面している様々な課題の解決に役立つ会報の作成に努めてまいります。

一　組織

委員長　齋田由加理（水・寿小）
副委員長　鈴木　麻紀（水・堀原小）
同　橘川三喜枝（笠・北根小）
幹事　中根　泰司（水・常澄中）
同　永尾　義江（小・小川南小）
校正委員　橋本　典子（水・内原小）
小委員
河野　護（常大・大宮中）
篠崎　昌子（那珂郡・村松小）
川野邊　和（日・日高中）
大谷　勝一（高・高萩中）
江面　祐子（鹿・中野西小）
方波見　論（鉾・旭東小）
佐藤　清（行・北浦中）
小吹　孝雄（石・葦穂小）
冨岡　富美（取・桜が丘小）
小山　光之（つ・今鹿島小）
石﨑　和雄（稲・新利根小）
大藤　正晴（つみ・伊奈小）
岡崎　学（北相馬郡・利根中）
海老根健治（結・江川南小）
田地　英樹（常・豊田小）
中島まり子（坂・長須小）
根本　亮平（結城郡・川西小）

二　**活動目標**

㈠学校長会の活動方針・事業等の周知及び情報の共有化

㈡会員相互の連帯感（われら意識）の高揚及び情報共有

㈢その他必要に応じた広報活動

三　**発行計画及び内容**

㈠二五六号（七月）
令和五年度の活動の方向、各部・各委員会の構想、新会員の紹介

㈡二五七号（十一月）
特色ある学校経営、創意を生かした特色ある教育課程

㈢二五八号（二月）
危機管理体制の整備と学校安全の確保、新年度に備えて

三　**活動の重点**

㈠各専門委員会との連携・協力、掲載する内容の許諾及び情報保護のためのパスワードの有効設定

㈡過去の情報に関する掲載内容の精選

㈢アフターコロナや働き方改革などによる出張や研修等の在り方、オンラインによる会議や動画配信の有効活用の啓発

四　**活動計画**

㈠活動内容の具現化のため、Webページ運営委員会を随時、オンライン等で開催・Webページ更新に係る規則や組織、更新方法の確認についての検討
・掲載内容の確認、今後の方針について

㈡令和五年度の事業の反省及び、令和六年度の計画案の作成
・更新情報の周知方法等
・今後の本委員会の組織づくりに関する検討
・会員がWebページを開いて閲覧する機会を多くするための方策

㈢掲載内容の検討と定期更新の推進

㈣「各ブロック・支部」「各委員会」等の資料や活動の成果の掲載

Webページ運営

新たな時代の先駆けとして

委員長　柳　研二

令和三年度より「専門委員会」の位置付けとなり活動を進めてまいりました。

ＧＩＧＡスクール構想による環境の整備により本委員会の役割はさらに大きくなり、アフターコロナにおいても重要な位置付けとなると考えます。そこで本委員会は、「Ｗｅｂを介した情報発信」を推進していくため、どのように運営していくか、運営内容の検討及び方法の改善を継続し、取り組んでまいります。

一　**組織**

委員長　柳　研二（水・稲荷小）
副委員長　倉本　明（石・府中小）
同　田村　俊之（結・絹川小）
幹事　遠藤　貞（北・奥小中）
同　河野　貞夫（行・麻生東小）
小委員　興野　庄一（水・飯富中）

二　**活動内容**

㈠Webページを活用した会員のためになる情報発信

㈡教育プラザWeb管理委員会との連携

㈢掲載内容の検討と定期更新

茨城県学校長会基本方針及び第４期中期教育ビジョン（３か年活動目標）

1　基本方針

1　学校からの教育改革を目指す学校経営の推進
2　学校経営の質を高める研究の推進
3　茨城県学校長会の組織運営の活性化
4　教育諸条件の整備
5　関係機関・団体との連携強化

※　これまで取り組んできた精神と業績を継承し、茨城県学校長会の方向性を示したものです。

2　第４期中期教育ビジョン

次世代を担う「人財」を育成し、新しい時代の学校教育を推進する。

※　基本方針を受けた「３か年活動目標」であり、茨城県学校長会の各組織（専門委員会や支部学校長会）間で連携した活動を通して、校長一人一人の参画型の取組を推進し、結果として「われら意識」を高めていけるよう工夫するためのビジョンです。

【視点１（行政との連携）】

（「人財」育成のための働きかけ）

★○教員免許更新制の発展的解消に伴う、「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた仕組みの構築
　・大学等との連携

★○質の高い教育のための人的配置に向けた調査研究
　・小学校専科教員の現状把握
　・部活動の地域移行に向けた連携
　・研修派遣に向けた人的条件整備の充足
　・ICT支援員の活用状況と要望

○管理職（スクールリーダー）育成のための連携強化

○教職をめざす人財確保のための教員の魅力発信（大学等）

●働き方改革に関わる県教委との協働体制の連携強化

●教職員定数の改善に向けた調査研究
　・中３までの35人学級実現に向けた、少人数教育の成果の共有

【視点２（学校の取組）】

（教職員の「人財」育成）

★○教職員の資質・能力向上のための校内研修の充実
　・学校の組織力向上のためのOJTによる研修の充実
　・ICT活用指導力の向上に向けた研修の充実

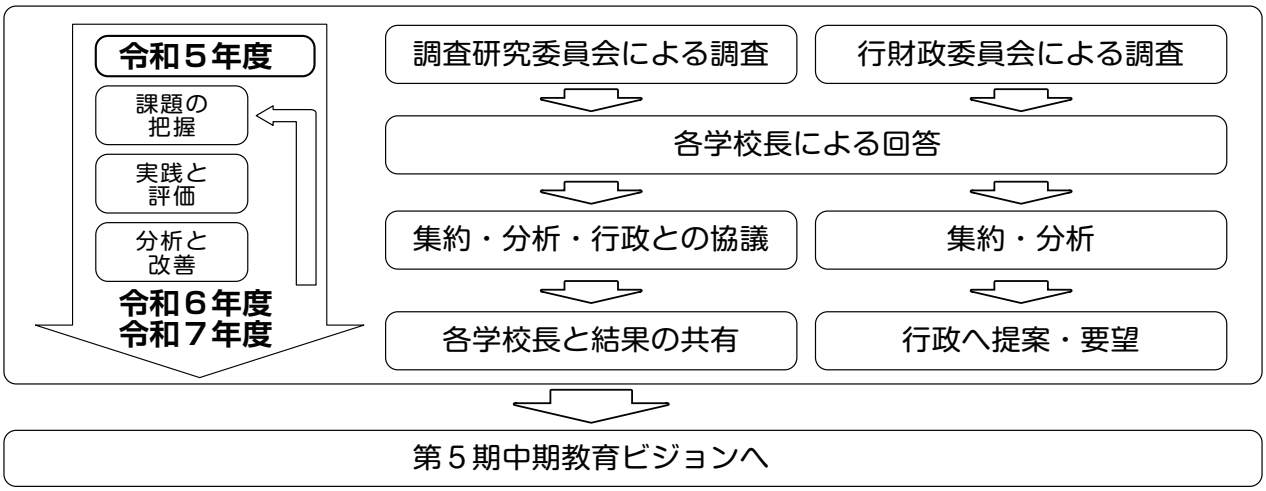
○教職員一人一人との対話に基づくキャリアステージに応じた研修の奨励
　・改正「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標」の活用
　・個別最適・協働的な教師の学びのための研修機会の確保

○教師自らの主体的な学びのためのマネジメント

○専門的な知識や技能を生かすための教育委員会、大学、各種団体との連携

●学校における働き方改革の推進

★本年度の重点　○第４期より新規　●第３期より継続



３　その他

○　全国連合小学校長会、全日本中学校長会、茨城県教育研究会及び茨城県小中学校教頭会等との連携強化
○　教育振興大会の開催と教育の充実に関する世論の喚起
○　子ども支援茨城連絡会（注１）との連携

（注１）　「子ども支援茨城連絡会」とは、教育関係23団体で構成される全国組織「子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体連絡会」の下部組織であり、現在のところ、本県では茨P連、茨城県学校長会、茨教組の三者で構成されている子供を支援する連絡会です。

課　題

ＡＩ時代を迎えても

茨城県学校長会
副会長（取手市立取手西小学校）
石　塚　康　英

故中山和彦筑波大学教授を中心とする人々が、昭和五二年、現在のつくば市立竹園東小学校において国内の小学校初となるコンピュータ支援授業ＣＡＩの実践研究を行った。それから約半世紀が過ぎた現在、学校にはＧＩＧＡスクール構想により一人一台端末や高速大容量の通信ネットワーク環境が整備されている。当時からすれば夢のようなこうしたＩＣＴ環境は、すべての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する上で極めて有効なものであり、各学校が創意工夫のある取組を実践しているところである。

特に「個別最適な学び」の実現においては、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うなど、「指導の個別化」に向け、ＩＣＴを用いて学習履歴（スタディ・ログ）を蓄積・分析・利活用することがとても重要であると考えている。これにより、教師がより具体的に指導・助言できることはもとより、子供自身が自ら見通しを立てたり、学習状況を把握して新たな学習方法を見い出したり、自らの学び直しや発展的な学習を行いやすくなったりする等の効果が期待されているからだ。

一方、こうした学びの実現に向けて、例えばＡＩドリルを活用しているとの話はよく聞くものの、蓄積・分析された学習履歴を積極的に利活用しているといった事例を聞くことは未だ少ない。それどころか、何をもってＡＩと称しているのかを疑問に感じるドリルさえ存在する。

中山教授は、その著書「未来の教室」において、「ＣＡＩとして大切なことの一つは、これまで学習してきた個人データをもとに学習者がなぜできないかを診断し、できるようになるための方策を決定し治療することにある。そのためには、現在出されている問題のみで診断することをしないで、これまでの学習経過や学習者の反応を総合的に判断しなければならない。これがなされないような学習プログラムは、ＣＡＩとはいえずティーチングマシンにしか過ぎない。」と述べている。

今年五月、文部科学省において、文章や画像を自動的に作り出す「生成ＡＩ」を学校現場でどう取り扱うべきかを議論する専門家会議が開催された。今夏を目途に、使用に適切な年齢や禁止すべき場面、仕組みや活用法を学ぶ授業のアイディア、教員の校務の負担軽減などについてのガイドラインが作成されるとのことである。一律禁止はあり得ないことと思うが、これを「個別最適な学び」の実現に向けて利活用していくのであれば教師が子供の学習履歴を蓄積・分析して指導・助言に当たることは必須であると考える。

ＡＩ時代の到来をも予測していたであろう中山教授の言葉が印象深い。「教育は、あくまでも人と人との相互作用が中心であるべきである。一斉授業の形態下において個別化を達成するためにコンピュータの助けを借りるのであれば、人と人の相互作用、特に先生と児童との間のやりとりをどのようにして確保するかがコンピュータ学習にあたっての重大なキーとなる。」

市町村教育委員会と学校長会

結城郡

八千代町教育委員会との連携

結城郡・東中
國府田　睦

八千代町校長会は、小学校五校と中学校二校の七校で構成されている。定例校長会・研修会は年間十一回設定されており、教育長から助言・指導をいただいたり、担当指導主事と連絡・調整・確認を行ったりしている。

八千代町の教育目標は、

①自主的な判断に基づき、行動のできる人を育成する
②思いやりのある豊かな人間性をつちかう
③積極的に健康づくりに取り組む態度を育成する
④互いに協力し、地域づくりに貢献できる人を育成する

を掲げている。また、キーワードを「輝きのある学校」とし、児童生徒一人一人が輝ける、ワクワクする学校づくりを目指している。

四月の校長会では、教育長から、毎日永久的に続く「安心・安全な学校づくり」を最重要事項とし、「子ども理解の徹底」を図った上で「子どもをど真ん中においた教育」を展開していくことのご指導をいただいた。

本町では、「学力向上」「不登校対策」の二点を重点課題として、校長会と教育委員会が連携して取り組んでいる。

○学力向上への取組

「各校・各教科十点アップ」を合い言葉に、次の三点を各校で具現化し、情報を共有しながら取り組んでいる。

※家庭学習の定着を含めた児童生徒の「学習の自立」を目指す。

※「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業改善を図る。

※「個別最適な学び」と「協働的・探究的な学び」の往還を図る。

また、学力向上の基盤として「読書活動の推進」に力を入れており、小学校では全児童が、年間五〇冊を一六年連続で達成している。

○不登校対策への取組

本町では、不登校対策を含め様々な児童生徒・保護者のニーズに対応できるよう、教育支援センター「けやきの家」を設置している。センターには二名の学校教育指導員が在駐し、不登校児童生徒のセンターでの相談事業に留まらず、学校と不登校児童生徒との架け橋となり個別訪問等も実施している。また、町内にある二校の中学校で毎週行われている「生徒指導部会」に学校教育指導員も参加し、不登校に限らず、生徒指導全般において情報を共有し、対応策について協議している。

本町は、小中合わせて全七校ということもあり、まとまりやすい規模である。協議事項があれば定例校長会に限らず、リモートでの会議も行い、情報を共有し様々な取組を行っている。

小美玉市

小美玉市教育委員会との連携

小美玉・小川南中
白井　律子

小美玉市学校長会は、小学校五校、中学校二校、義務教育学校二校の計九校で構成されている。市教育委員会と密接な連携を図りながら、市の教育の基本理念である「夢と希望を抱き自らの明日を切り拓く人づくり」の実現に向け、学校経営に努めている。

毎月一回開催の定例校長研修会では、教育長、理事兼教育指導課参事からの指示・伝達のほか、国・県の動向を踏まえた指導・助言をいただいている。また、担当諸課長や関係諸機関から市の施策等に関する情報をていねいに説明していただき、市教育委員会と一体となって研修や課題解決に努めている。市教育委員会との強い連携により九校の校長が、学校経営に安心して当たることができている。

本市の様々な施策の中から、主なものを以下に紹介する。

一　小中一貫教育の推進

本市ではよりよい学習環境を目指し、義務教育九年間を系統性・連続性のある教育課程としてとらえ教育活動を進めている。地域の実態に合わせた各中学校区の小中一貫教育目標や目指す児童生徒像を設定し、小中一貫教育の構築を目指している。小中一貫教育推進委員会や担当者会議が開催され、各中学校区の取組について、情報交換が行われている。

二　コミュニティ・スクールの取組の充実

本市は、全ての学校に学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールとして地域と一体となった学校づくりを推進している。「地域と一体となった教育の推進」「地域とともにある学校づくり」の実現に向け、市教育委員会からは助言をしていただいている。地域の方々の参画により、地域と学校との協働の取組が一層推進されるよう、市教育委員会が支援策や幅広い地域の方々への周知などを担ってくださっている。

三　学校支援

市教育委員会による学校支援には、学校長会の意向が尊重されている。校務支援システムは導入から約一〇年になり、教職員の業務改善につながっている。

また、本市独自の学級編制弾力化のための市教職員の配置や学力向上支援員、スクールソーシャルワーカー、生活介助員、図書館司書、学校支援ボランティア、部活動指導員等、学校の状況に応じ、幅広い分野で多くの人材の配置をしていただいている。学校経営の上で心強いものになっている。

これからも市教育委員会と学校長会が連携をさらに深め、社会情勢の変化や様々な教育改革等で大きな転換期の中で育つ児童生徒の「人づくり」を推進していきたい。

提言二題

デジタル教育と働き方改革

北茨城市ＰＴＡ
連絡協議会会長
加島　優

茨城県の最北に位置する北茨城市で、今年度のＰＴＡ連絡協議会の会長職をお預かりする、加島優と申します。日頃より校長先生はじめ諸先生方には、児童生徒へのご指導と、ＰＴＡ活動へのご参加・ご協力を賜りこの場を借りて御礼申し上げます。

さて、この度、学校長会広報誌での提言という機会を頂戴し、貴重な経験ができるとありがたく感じています。

コロナ禍より、少しずつ明るい光が見え始めたこの頃、社会は新しい生活様式へ移り変わりました。この数年で多くの変化が訪れました。我が家においても小学生の子供たちが、自宅でのオンライン授業を受ける姿は、微笑ましくも、学校に通えず友達と会えない憂える状況でした。ある時、授業を受けているはずの子供部屋から縦笛の音が聞こえてきました。不思議に思い部屋を覗いてみると、画面の中の先生は一生懸命に歌い、ピアノを弾きながらカメラの先の子供たちに語りかけていました。それは音楽の授業でした。まだ慣れないツールを使いこなし、会えないクラスの子供たちを鼓舞するようにピアノを弾き語る先生の姿は、教育への情熱と愛を感じ、感動したことを思い出します。

近年の急速な技術の進歩は、教育界においても大きな潜在力を秘めていると感じます。残念ながら先般のオンライン授業は近年行われていないように見受けられます。もちろん多くの問題を抱えている授業形態であることも理解していますが、この形態をこのまま辞めるにはあまりに惜しいのではないでしょうか。年に数回でもオンライン授業が行われれば、子供たちがＩＣＴの恩恵を感じる機会となりますし、教職員の皆様の働き方改革の一助になると考えます。我々北茨城市Ｐ連でも、対面もオンラインも参加可能な形式で会議を行い、出席者がより参加しやすくなるように活動をする予定です。これからも授業はもちろんＰＴＡや学校関連の会議などに再びオンライン形式を用い、働き方改革を推進していただきたいと思います。

また、この数年ＡＩ技術の進歩には驚かされるばかりです。ＡＩ技術によるデータ分析から個別のカリキュラム提供や、進路指導などに活かせることができれば、より適切で負担の少ない教育の提供にもつながると感じます。プログラミングやＡＲ技術など、未来を担う子供たちにデジタルの知識は不可欠です。ここで白状しますが、この文章は話題のＣｈａｔＧＰＴで生成された文章を再構成しています。制約条件や思考フローの指定によって自分の意に沿った文章生成が可能です。どうか最新技術に臆することなく、子供たちが様々なデジタル技術に触れる機会を逃さずに、共存していけるよう家庭と学校が協力していきましょう。それが子供たちの未来を照らす光となるはずです。

地域の方々との協力を

鹿嶋市ＰＴＡ
連絡協議会会長
高須　清人

鹿島アントラーズのホームタウンである鹿嶋市で、今年度のＰＴＡ連絡協議会会長を務めることになりました高須清人と申します。よろしくお願いいたします。

また、日頃より、校長先生をはじめ先生方、各学校関係者の皆様には、子供たちのために熱心にご指導いただき、誠にありがとうございます。

私は自分の子供が入学してから四年間をＰＴＡ副会長、二年間を会長として活動して参りました。自分も通学した学校であり、その母校でＰＴＡ活動を行うことは、非常に感慨深いものがあります。自分の子供だけでなく、地域の子供が楽しい学校生活を送れるようにと、微力ながら尽力してまいりました。

さて、新型コロナウイルス感染症の位置付けが五類に移行し、社会も少しずつコロナ禍以前の生活に戻ろうとする動きが見られます。今まではマスクを付け、ソーシャルディスタンスに気をつけながら生活していましたが、自分の周りでもあまり意識しなくてもよい場面が増えてきました。学校行事も、元の様に戻っていくものと思われます。

しかし、三年間の新型コロナウイルスの影響が確実に残っているのも事実です。私が所属しているＰＴＡの活動だけをピックアップしてみても、この二年間のＰＴＡ総会は書面決裁で行いました。保護者が実際に一堂に会する機会がありませんでした。通常のＰＴＡ活動もほとんど行われず、話合いの場すら取れなかったのが現状でした。保護者同士の連帯感が薄れたように感じます。

また、少子化の影響も気になります。今の子供世代ばかりではなく、親の世代も兄弟が少ないので、親戚関係で大人数が集まる機会すらもたない子供も増えたと思います。親と子の関係性だけで、他者との関わりが極端に少ない子供もまた増えました。

地域の活動も少なくなりました。子供会や各自治会の催し物が中止あるいは縮小開催になり、楽しみにしていた子供たちが残念がる様子も見てきました。また、共働きの家庭が増え、子ども会や各自治体の活動に実際に参加できない家庭も増えています。

新型コロナウイルスが残した爪痕は、確かに大きなものでした。しかし、私はそれ以上に「個の分裂」という大きな病が、これからの日本を襲うような気がしてなりません。

もちろん、「個」は正しく保障されるべき権利であり、「個」で活動していた方が楽な部分もあることは否定しません。しかし、「個」が抱える不安や疑問等は、「つながり」の中で解消していくことがあるのも事実です。その「つながり」を少しずつ増やすことが大事だと考えています。

ＰＴＡは、あくまでも先生方と保護者との組織です。私は従来のＰＴＡ活動を見直し、負担を分散し、一人一人が公平に活動できるＰＴＡを目指していきたいと思います。その上で先生方と保護者との連携の強化だけではなく、地域の方々との連携も重視できればと考えています。

ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

経営研究

創意と活力に満ちた学校経営

個が育つ 魅力ある学校づくり

水戸・堀原小
鈴木　麻紀

一　はじめに

本校は、水戸市の西部に位置し、創立三九年を迎える学校である。児童数は二六五名で、通常学級一〇クラス、特別支援学級四クラスで構成されている。教職員は、本校が新任校である教職員が多いため、中堅教諭がファシリテーターとなって、学校運営に積極的に取り組んでいる。本校の課題は、確かな学力の定着と自己肯定感の向上である。「チーム堀原」の組織力を生かし、課題解決に向けた教育方法のアップデートに努めている。

二　本年度の学校経営

学校教育目標は「自ら学ぶ　心豊かな　たくましい児童の育成～魅力ある学校づくりを通して～」である。また、組織目標を「『分かった』『できた』『嬉しい』が実感できる場を増やす」と設定し、「個が育つ」学校づくりに取り組んでいる。

学校教育目標に示した「魅力ある学校づくり」を、児童、教職員、保護者、地域の視点から捉え、個の育成につなげていく。

㈠児童にとって、互いのよさや努力を認め合える学校づくり

「みんながリーダー」を合言葉に、児童一人一人が主役として、活躍できる場の設定に取り組んでいる。「自分は○○リーダー」という自信により、一人一人のよさや可能性を引き出し「自己肯定感」の向上を推進していく。また、昨年度、水戸市教育委員会「大学との連携事業『つながる学び　みと☆Future College』」の拠点校に指定され茨城大学との連携のもと研修した「協働的な学びにおけるＩＣＴ活用」を生かし、互いのよさや努力の認め合いの充実をさらに図っていく。加えて、特別支援教育コーディネーターによる多様性を認め合える「構成的グループエンカウンター」の提案を受け、担任が計画的に実施することで、よりよい人間関係づくりにも励んでいる。

㈡教職員にとって、児童の成長に成果を感じられる学校づくり

個の育つ組織づくりに向けて、研修体制の構築に努め、教職員の資質・能力の向上を目指す。本年度は「分かった」「できた」を実感できる算数科の学習指導を研究の軸とするとともに、新たな取組として、自主参加によるＩＣＴ活用や特別支援教育、道徳科におけるミニ研修会を実施する。また、児童の成長や教育方法の成果等についての話題が日常化される雰囲気づくり、職員室での会話の奨励に励む。さらに、「みんながリーダー」を教職員にも波及させ、校務分掌を基に、一人一人が組織を動かす場を設定し、個のモチベーションを高めることで、組織力を高めていく。児童の学力向上に向けた協働体制の一つとして、第三学期には、低学年担当教員が児童の下校後、第四・五学年の習熟度別指導へのサポートを行う試みも展開している。

㈢保護者にとって、児童の活躍する姿が見られる学校づくり

本年度は、保護者による学習活動への参加、参観の場を増やし、毎月、保護者が児童の活躍する姿を見ることができる機会を設ける。具体的には、ＰＴＡの皆様のご協力により、今まで学校行事等の設定がされていなかった月に、親子学習会を実施していただく。また、外部講師による学習活動や学年行事を積極的に公開する。クラスごとに「フリー参観」として、児童の姿を見ていただく時間を設ける。十一月には、ＰＴＡおよび堀原学区子ども会育成会と共に、「堀原風の子まつり」を開催する。午前は授業公開、午後はＰＴＡおよび堀原学区子ども会育成会のアイデアあふれるイベントに参加し、楽しい時間を共有する。

㈣地域にとって、学校との結びつきを実感できる学校づくり

地域との結びつきを深めるために「共有と交流」に努める。本校は「堀原住民の会」の皆様によって、厚く支えられている。「地域の目」運動による見守り体制づくり、除草作業を通した環境整備等にご協力いただいている。堀原学区子ども会育成会による「リーダー研修会」では、「リーダーとは」というテーマでのグループトークも実施されている。また、地域との交流として「伝統」となっているのが、毎年、八月最終日曜日に開催される「堀原火の国まつり」である。高学年児童は、愛宕山古墳にて「火おこし」を行い、その火をかがり火として校庭に設置する。神輿をかついだり、火の国太鼓の演奏が行われたりする。低学年、中学年児童は、ダンスを披露して場を盛り上げることで、地域と学校とが一体となり、郷土愛を培う場となっている。学校運営協議会委員との情報共有においては、定期的な学校運営協議会に加え、警察と連携して

堀原火の国まつり

の校内研修会等への参加もいただいている。

三　おわりに

本年度は、コロナ禍により得た経験から、「新たな学びの形」を協創する改革の年と考える。教職員一丸となり、さらに、学校の魅力を高めながら「分かった」「できた」「嬉しい」が実感できる場を増やすことで「個が育つ」堀原小を築いていきたい。

生徒の自己有用感・自己肯定感が高まる学校を目指して

鹿嶋・平井中　細川　嘉彦

一　はじめに

本校は、鹿嶋市の南東部に位置し、東に太平洋鹿島灘を臨み、学区内にJリーグ鹿島アントラーズのクラブハウスや選手寮がある。創立三八年を迎える本年度は、生徒数二六六名、職員三四名でスタートした。優しくあいさつがよくできる生徒が多く、校門前の信号のない横断歩道では、止まってくれたドライバーの方へ自然と頭を下げる姿が多く見られる。また、昨年度は、市内の大型ショッピングセンターで、困っていたところを本校生徒に助けてもらったと感謝の電話をいただいたこともあった。

二　本校の現状と課題

生徒数が年々減少しているが長欠生徒や不登校生徒の数は、毎年度大きな変化がない。長欠生徒や不登校生徒の中には、複雑な家庭環境下で生活する生徒もおり、関係機関との連携は欠かせない。また、友人関係が構築できず、適応指導教室への登校や別室登校をしている生徒、スクールカウンセラーとの面談が必要な生徒、自分に自信がもてない生徒等が一定数いる。人間関係を築く力の向上が課題である。

三　本年度の学校経営

人間関係を構築するためには自分自身を認め、他者とのかかわりのよさに気付くことが大切であると考える。また、予測が困難な時代といわれるこれからの社会を主体的に生きていくためには「自己有用感と自己肯定感」をもつことが重要だと捉え、本年度の組織目標を「生徒の自己有用感・自己肯定感をさらに高める」とした。組織目標達成のためのキーワードとして、生徒に対しては「認め合い・支え合い・高め合い」、職員に対しては「寄り添う・見守る・認める」とした。

㈠　自己有用感・自己肯定感の定義

自己有用感とは「①自分の存在価値を感じる②誰かの役に立てたという成就感③誰かに必要とされているという満足感」、自己肯定感とは「①失敗してもいい②欠点があってもいい③未熟な自分でもいい」というありのままの自分を受け入れることとした。

㈡　主な取組

①学年・学級経営

生徒一人一人の個性・特性を理解した上で、一人一人に役割と責任をもたせることを学年・学級経営の基本としている。具体的な生徒への対応については、生徒指導主事等が中心となった研修を位置付けている。

②「主体的・対話的で深い学び」の実践

どの教科においても、単元構想を明確にするとともに、学習課題解決のための学習形態において、自己決定する場と他者との意図的交流の場を設定している。そして、最後に必ず『振り返り』を行っている。他者との交流により、成就感や満足感が得られるように、振り返りによって自分の成長を客観視することができることを目指している。

③道徳教育の充実

道徳の時間を要とし、学校行事と関連した題材を計画的・意図的に取り入れている。また、授業者は担任だけでなく、学年内の教師がローテーションで行い、生徒の内面的な成長を学年内で共有するようにしている。

④特別活動の充実

生徒会本部役員及び各専門委員会の活動を通して、学校運営への参画意識をもたせるようにしている。それぞれの活動が、よりよい学校生活につながっていることを教師や活動の振り返り等を通して気付かせ、活動の意義を実感できるようにしている。体育祭や文化祭は、当然ながら生徒主体の実行委員を中心に計画・運営を行い、一人一人が役割と責任をもって活動している。昨年度生徒会を中心とした校則改定では、各学年・学級内での協議や教師と生徒会役員との意見交換を何度も行い、「自分たちが変えた」という実感をもつことができた。教師側は、生徒に寄り添いながら、支援に徹することで、生徒の成就感を高めることができた。

公民館事業の運営委員として働く生徒

⑤公民館事業との連携

年二回ある公民館事業に、希望する生徒が運営委員として参加している。バルーンアートや輪投げ、演芸会の進行補助等を通して、地域の子供からお年寄りまで交流を図っている。「ありがとう。」「助かったよ。」と言われることが大きな励みになっている。何よりも中学生といると元気をもらえるという話を何度も聞くことができた。地域貢献の実感を味わうよい機会となっている。

四　終わりに

生徒が自己有用感・自己肯定感を高め、自信をもったり、よ

りよい人間関係が構築できたりしている姿を校内で共有していきたい。また、生徒の変容にかかわっている教師自身の自己有用感が高まり、教師としての自信、教師としてのやりがいにつなげていきたい。

一人残らず、みんなで成長する学校

牛久・向台小
大髙　稔子

一　はじめに

牛久市では、『一人残らず質の高い学びを保障する学校づくり「安心」と「夢中」』を教育目標とし、すべての子供を学校生活で幸せにすることを目指している。子供たちの学校生活のほとんどの時間は授業の時間である。そこで、本校では、「授業を核とした学校づくり」を目指し、日々の教育活動を行っている。また、目指す児童像の一つに「人とのかかわりを大切にする子供」がある。本校の子供たちに特に身に付けてほしい力である。仲間や地域の方々とかかわりながら学ぶことができる授業づくりを目指している。

二　「学びの共同体」としての学校づくり

㈠認め、高め合う教職員集団づくり

①学校開き

四月の学校開きにおいて、教職員一人一人の学校づくりへの参画意識を高めるため、全教職員にアンケートを実施した。内容は、「どんな学校をつくりたいか」「どんな大人（教職員、保護者、地域）のチームをつくりたいか」「今、または未来の子供たちに必要な力とはどんな力か」の三点である。それらの内容をもとに、今年度のグランドデザインを作成し、「自分がつくる学校」としての意識を高めている。

②授業づくり研修の日常化

毎月、授業研修会を実施し、全員が授業を開き、授業後の見取り学習を行っている。また、授業研修以外でも空き時間に他の学年学級の授業を参観したり職員室で教材について検討したりと自主的に授業づくりについて語り合う雰囲気ができている。

校内授業研修会

③同僚性の構築

教職員は、学級経営、子供との関係づくり、保護者対応などで日々悩みながら教育活動を進めている。この悩みを解決するために必要なのが同僚性である。困り感のある教職員を支援できる同僚性を構築するために、管理職による声かけ、日々の授業参観、個別面談などを継続している。

㈡人とのかかわりを大切にする児童の育成

①聴き合う関係づくり

四月の学級開きから、どの学級も「聴く」ことを大切にするよう子供たちに話をしている。毎時間の授業でペアやグループの学びを行い、友達の考えを最後まで聴き合える関係、「教えて」と言える関係を育てている。また、友達の分からなさや考えを受け止めることができる雰囲気をつくっていくことで、安心して人とかかわれる教室経営を進めている。

②異学年交流、地域との交流

子供たちは、他の学年の子供たちとのかかわりや地域住民とのかかわりを通して、人とのかかわり方を学んでいく。今年度は、感染症対策も緩和されたこともあり、異学年交流を多く取り入れていく。特に高学年による委員会活動の活性化を図る。また、地域住民との交流として、学校花壇づくりや生活科の昔の遊びの交流、地域探検による交流を計画している。

㈢保護者・地域住民も共に学び合う地域とともにある学校づくり

①学校運営協議会の活性化

学校の運営に積極的に参加できる学校運営協議会の運営を進めていくため、授業づくりを中心とした連携を行っている。また、学校だよりやコミュニティ・スクールだよりを通して、教職員、保護者、地域の学校運営協議会の活動状況の共有化を図っていく。地域学校コーディネーターを中心とした学校情報発信を行い、情報を共有しながら、主体的な活動を推進していくことが今年度の課題である。

②子供を中心に、共に支え合う保護者との関係づくり

四月の学校開きの際、「保護者は、学校に協力するのではなく、共に学校づくりをする一員である」ということを伝えた。子供の幸せのために、考えを交流し合い、よりよい支援を行うことができるような関係づくりを目指している。

三　おわりに

子供たちにとって人間関係、家庭環境、社会環境の状況は多様であり、個々への対応に取り組む日々である。だからこそ、学校、保護者、地域が協働し、子供たちにとって「安心」と「夢中」のある学校づくりを進めていきたいと考えている。

生徒の主体性を育み、活力ある学校づくりを目指して

下妻・下妻中
菊池　哲也

一　はじめに

本校は、県西地区の中心に位置し、校舎から砂沼と筑波山を望む豊かな景観の学校である。平成三〇年に新築された校舎は、木材がふんだんに使用され、教室の大きな窓からは太陽の光が大量に差し込み、学校を訪れる方々が驚くほどである。この恵まれた環境の中で四九六名の生徒たちが日々熱心に活動している。

二　本校の現状と課題

多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っており、部活動や学校行事では大変活発な活動が見られる。

しかし、指示されたことには真面目に取り組むものの、主体性に乏しい面もある。また、どの学年にも欠席の多い生徒や教室に入れない生徒がいる。

学習面では、授業に集中して臨むことができる反面、自分の考えを自信をもって表現することが苦手な生徒が多く、各種調査でもその傾向が見られる。

そこで、「学力向上」と「不登校生徒の解消」を重点課題として、教育活動に取り組んでいる。

三　本年度の学校経営

課題解決に向け、学校教育目標として「自ら考え判断し、心豊かに、粘り強く生き抜く生徒の育成」を掲げた。予測不可能な社会を生き抜くためには、生徒一人一人が主体的に活動できること、また、仲間と協働して課題解決できるようにすることが重要である。授業はもちろんのこと、学校行事や部活動など様々な場面で生徒に任せ、教員が必要に応じて適切に支援することで成功に導き、生徒の自己肯定感を高め、さらに次への意欲を培いたいと考えている。

四　本年度の取組

㈠思考力・判断力・表現力等の育成

授業において、生徒が自分の考えをもち、相手に分かるように表現する力の育成が求められる。そこで、教科部会や校内研修を計画的に実施し、各教科で付けたい力を明確にするとともに、その方策について協議し全教員で共通理解を図っている。特に、友達との積極的な意見交換ができるよう全教科で毎時間協働的な学習を展開している。その際、生徒一人一人がタブレット端末を有効に活用し、自分の考えを工夫して伝えている。また、各教室にプロジェクターが整備されていることから、教材提示や生徒の考えの比較などＩＣＴを効果的に活用した授業が展開され、学習内容の理解や表現力等の育成に活かしている。

㈡生徒会や各種実行委員会による学校の活性化

昨年度、生徒会を中心に校則の見直しが行われ、頭髪、運動靴のきまりが自由化された。見直しに当たっては、学級の意見を持ち寄った代表生徒が中心となって何度も話合いが行われ決定された。担当教員の支援の下、生徒たちが主体的に考え、議論して導いた結果である。決定に際しては、生徒会本部役員からその経緯を説明した上で新たな校則の理念を今後に継承し、自分たちの力で維持していくことの重要性を全校生徒に伝えた。本年度、新入生を迎えて改めて校則の重要性を伝えつつ、今後新たな見直しにも着手していく。

また、体育祭をはじめとする各種学校行事では、生徒主体の企画・運営を実施している。生徒の手による行事づくりを通して、達成感を味わわせ自己肯定感の高揚につなげている。

㈢校内フリースクールの設置

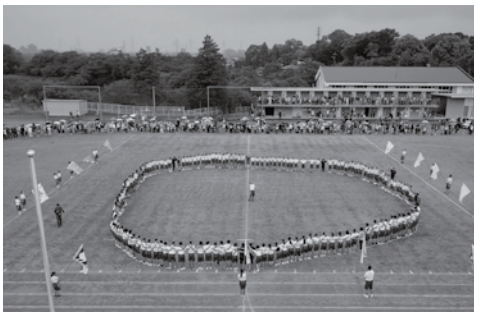
不登校生徒の解消や教室に入れない生徒の居場所づくりとして、本年度、学校独自に校内フリースクールを週三日開設している。定数教員の中から担当教員一名、市教委から学習支援員として一名配置し、二名が常駐している。これは、生徒の教室復帰のみを目的とせず社会的自立を主眼に置いたものである。

生徒は、登校すると自分で活動計画を立て、計画に則って生活している。読書やワークを使った学習、オンラインでの授業参加も可能である。また、ボードゲームなども自由にすることができ、教職員と語りながら楽しむ姿も見られる。五教科の教員が支援できるように配置するなど学力の保障を行うとともに、学級担任も顔を見に来るなど、担当者のみの関わりにならないよう努めている。

ただ、これは対処療法的な取組であり、授業や学校行事等を通して、不登校生徒を生まない学校づくりが必要である。

五　おわりに

本年度、学力向上と不登校生徒の解消に向け取り組んでいるものの、一朝一夕に解決できることではない。何より重要なのは教職員の共通理解・共通実践である。同じ目標に向かって一丸となって取り組むことができるよう、学年や教科をはじめ、各部会等における組織を活かし、常に成果と課題を把握しながら進めていくことが重要であると考えている。



体育祭での生徒による円陣

創意と活力に満ちた学校経営

新会員の抱負

中央

水戸市
笠間市
ひたちなか市
常陸大宮市
小美玉市
東茨城郡
久慈郡

水戸・酒門小
細谷康之

素直な児童、勤務意欲溢れる教職員、協力的な保護者、温かく見守ってくれる地域の学校に赴任することができ、幸せを感じる一方で、その職責の重さを実感しております。

児童が卒業するとき、職員が離任するとき、この学校で過ごしてよかった、幸せだったと感じられる学校を目指します。

水戸・石川小
堀江昌代

「一人一人のよさを生かし、活力に満ちた温かい学校づくり」を念頭に置き、一人一人の居場所がある教育の実現に邁進していく所存です。明るく熱心な教職員や協力的な地域、保護者の皆様との出会いに感謝しながら、石川小に勤務できる喜びとその職責の重さを実感しています。精一杯、全力で取り組んでまいります。

水戸・飯富小
増田浩一

今年で一五〇周年を迎える歴史と伝統ある飯富小学校に勤務できることに喜びとともにその職責の重さを感じています。

本校の教育目標である「自ら学び　思いやるのある　たくましい児童の育成」に向け、児童のよさや可能性を引き出す学校づくりに努めてまいります。

水戸・上中妻小
浅野直俊

田植えや芋掘り、鷺草の栽培など、協力的な保護者と地域の方々に支えられている上中妻小学校。創立一三四年の歴史と伝統ある学校に勤務できる喜びと職責の重さを日々実感しております。「心美しく、体たくましく、知識豊かな児童の育成」を目指し、全職員が毎日笑顔で、力を合わせて取り組んでまいります。

水戸・飯富中
興野庄一

創立七七年、生徒数八八名の伝統ある飯富中に赴任し、喜びを感じるとともに、その職責の重さに身の引き締まる思いです。

本校は、「あいさつ　まごころ　清掃　日々新た」を生活の合い言葉として、職員一丸となり、組織目標であるアウトプットを重視した教育活動を推進し、地域と共にある学校を目指します。

水戸・常澄中
中根泰司

生徒たちと交わす気持ちの良い挨拶で一日がスタートします。素直で元気な生徒と、温かく協力的な保護者・地域の方々に支えられている常澄中で勤務できる喜びと同時に、職責の重さを感じております。本校の教育目標の「社会の変化に対応するための術を身に付けた生徒の育成」を目指し、精一杯努力してまいります。

笠間・稲田小
髙野裕一

稲田は石で有名ですが、先人たちのたくさんの苦労があって戦前から戦後へとまちづくりの汗が脈々と受け継がれているところです。このエネルギーに満ちあふれている地に赴任できたこと大変嬉しく思います。この地を担う子供たちが将来幸せになれるよう、地域の皆様と協力して育てていきたいと思います。

笠間・友部第二小
常井裕二

明るく元気な子供たちと情熱ある教職員、学校に協力的な家庭・地域に支えられた友部第二小学校に勤務できる喜びと職責の重さを感じています。

教育目標「自ら学ぶ意欲をもち、創造性豊かな子供を育てる」ために、学校・家庭・地域が連携・協力した地域とともにある学校づくりに努めます。

笠間・稲田中

久保木香澄

素直で優しい生徒たちと協力的な保護者や地域の方々、職務に誠実に取り組む職員に支えられて勤務できる喜びと、職責の重さを感じています。

この稲田中学校に関わるすべての人を大切にしながら、生徒たちの可能性を最大限に引き出し、魅力ある学校をつくっていけるよう尽力してまいります。

笠間・岩間中

池田亜紀子

大好きな岩間の地に再び勤務できる喜びと校長としての責任の重さを感じております。

本校の教育目標である「自ら学び　心豊かで　たくましい生徒の育成」の実現に向け、教職員とともに、「明日が待たれる　魅力ある学校づくり」に精一杯・丁寧に・心を込めて取り組んでまいります。

ひたちなか･那珂湊第一小

清水裕美

水戸藩の郷校である文武館跡地に建つ本校は、創立一五〇年を迎えます。樹齢百年以上ある桜の木は、子供たちを見守っているようです。歴史と伝統の重みを感じながら「笑顔いっぱい　夢いっぱい　共に伸びる学校」をつくり、「ふるさとを愛し　未来を拓く心豊かな　みなとっ子」を、保護者や地域と共に育てていきます。

常陸大宮・大宮中

河野　護

歴史と伝統のある大宮中学校で勤務できる喜びと責任の重さを実感しております。「輝く明日を創らんよ　此の学舎に睦みあれ」の校歌の一節のように、子供たちが学び高め合い、教職員がやりがいを感じて持ち味を存分に発揮し、保護者や地域の方々が安心できる笑顔あふれる学校づくりに尽力してまいります。

小美玉・竹原小

狩谷秀一

本年度、創立一五〇年を迎える歴史と伝統ある学校に勤務できることに大きな喜びを感じています。素直な児童たち、熱意ある教職員、温かく見守ってくださる地域の方々、すべてに感謝するとともに責任の重さを実感しています。「明るく　本気で　たくましく」の校訓のもと、全職員で精一杯取り組んでまいります。

東茨城郡・大洗小

野上幸広

活気あふれる児童、協力を惜しまない保護者や地域の方々、そして意欲的な教職員のいる大洗小に勤務できることに感謝するとともに責任の重さを感じております。児童の主体性を尊重しながら、「ふるさとを愛し夢や希望の実現に向けて力強く歩む児童の育成」を目指し、全職員が一丸となって取り組んでまいります。

東茨城郡・常北小

豊田かおり

ひばりのさえずる美しい自然と温かい地域に育まれている八〇名の子供たち。ひたむきに頑張る一途さ、思いやりのある姿から、共に成長を喜び合える幸せと重責を感じます。小規模校の強みを最大限に生かし、一人一人のよさや可能性を伸長できるよう「子供が主役の学校づくり」をチーム常北小で取り組んでまいります。

久慈郡・依上小

石川真裕美

創立一五〇年の歴史と伝統ある本校に勤務できる喜びとともに、校長としての職責の重さを日々感じております。

全児童五二名の小さな学校ならではのよさを生かしながら、心も体も強くたくましい「依上健児」の育成を目指し、教職員、保護者、地域と共に、精一杯取り組んでまいります。

久慈郡・袋田小

生天目剛史

創立一五〇年の歴史と伝統があり、重厚感のある木造校舎である袋田小学校に勤務できることに喜びと職責の重さを感じております。「互いのよさを認め合い、協働して取り組む」をスローガンに、教職員一丸となり、袋田の地域力も生かし、児童一人一人が夢や思いやりをもち、輝ける学校づくりに取り組んでまいります。

久慈郡・さはら小

相田清美

緑豊かな木々、整然と刈り込まれた段々茶畑、澄んだ水の小川に囲まれた全校児童二〇名の小規模校です。本校の特色である、保護者や地域の方々との協働による「夢道場」（農作物の生産・販売）の取組を中心に、みんなで話し合い工夫改善していく体験を重ねることで、一人一人がいきいきと耀く学校を目指します。

久慈郡・生瀬中
山本一典

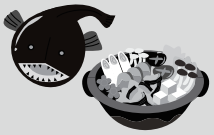
奥久慈の豊かな自然に囲まれ、創立七七年の歴史と伝統ある生瀬中学校に勤務できる喜びと職責の重さを感じております。素直な子供たち、熱心な先生方とともに、小規模校のよさを生かしながら「夢　笑顔　感動」をキーワードとして、生徒一人一人が輝くことのできる学校づくりに取り組んでまいります。

久慈郡・大子西中
澤畑孝也

通勤は五〇km以上だが季節の移り変わりを感じながらのドライブは楽しい。全校生徒は三四名と少人数だがその分一人一人に十分支援ができる。職員数は一四名と少ないが、毎日全職員と会話ができる。地域の方々は、打ち解けるのに時間がかかるけどみんな熱い思いの持ち主。そんな充実した毎日を過ごせる今が幸せ。

県北

日立市
常陸太田市
高萩市
北茨城市



日立・仲町小
小泉裕子

素直で明るい子供たち、協働的な教職員、協力的な保護者や地域の方々に囲まれ、伝統ある仲町小学校で勤務できることの喜びと職責の重さを感じています。

未来を力強く生きていく子供たち、心身共に健康で人間性豊かな「強く、正しく、美しく」仲町っ子の育成に、全職員で力を合わせて取り組んでまいります。

日立・大久保小
藤谷真一

「教職員の『幸せ』が子供たちの『幸せ』をつくる。」いつも上機嫌、明るく楽しい職員室をつくることが私に課せられた使命だと考えています。元気な子供たちと毎日運動場で遊べる喜び。創立一五〇年の記念すべき年に赴任できた縁を大切に、児童、保護者、地域、職員と一緒に考え、一緒に学校をつくってまいります。

日立・河原子小
大澤真由美

目の前に大海原が広がる伝統校、河原子小学校に身をおける喜びとともに、その重責を感じています。子供たちは地域の方に温かく見守られ元気に学校生活を送っています。今年度は、「ひらく～つなぐ」をキーワードとし、自分を開き、拓く、そして他者や社会とつながる学校を全職員で目指してまいります。

日立・大沼小
坏　聡子

素直で元気な子供たち、明るく前向きな教職員、温かく協力的な保護者や地域の方々に囲まれ、伝統ある大沼小学校に勤務できることに喜びと職責の重さを感じております。「夢をもち　生き生きと学び合う　心身ともにたくましい大沼っ子の育成」に向け、チーム大沼でスクラムを組み、最善を尽くしてまいります。

日立・日高小
井坂敏子

創立一五〇年を迎える歴史と伝統のある日高小学校に勤務できることに大きな喜びを感じるとともに、職責の重さを感じております。

本校の教育目標である「夢をもち　心豊かに　たくましく生きる日高っ子の育成」に向け、教職員・保護者・地域と力を合わせ、全力で取り組んでまいります。

日立・久慈小
木村　央

明るく元気な子供たちと協力的な保護者や地域の方々、熱意あふれる教職員に支えられて勤務できる喜びと、職責の重さを感じています。教育目標「未来に向かって、たくましく生きる久慈浜っ子の育成」を目指し、教職員、保護者、地域が一丸となって、子供たちのために力を尽くしてまいります。

日立・坂本小
青木房子

「心の教育を基盤とした学校づくり」の実現に向けて、職員一同、「愛情」と「情熱」をもって、日々、子供たちと向き合っています。目指す教師の姿は、「後ろ姿で導く教師」です。「笑顔であいさつする姿」「傾聴・共感する姿」「一緒に遊ぶ姿」など私たちの後ろ姿が、子供たちの前で嘘のない姿でありたいと思っています。

日立・東小沢小
宮田弘美

一名の新入生を迎え、一〇名でスタートし、今年度でフィナーレを迎える本校。節目となる年に赴任したことに大きな責任を感じております。

保護者、地域の皆様と一体となって、子供たちのよさと力に磨きをかけ、新しい仲間との出会いに自信と希望をもって進む「東小沢っ子」を育てていきます。

日立・平沢中
渡邉和重

創立七六年の伝統と歴史のある平沢中学校に赴任できたこと、とても嬉しく思うとともに、日々その職責の重さを実感しております。

校歌にある「希望の子らのよるところ」のとおり、夢や希望をもって未来を切り拓いていく生徒の育成を目指し、全力で取り組んでまいります。

日立・駒王中
藤田　洋

海と山に囲まれ、豊かな環境に恵まれたモダンな校舎。特徴である、教科教室型のメリットを最大限に活用し、「生徒を主語にした学校経営」を実現していきます。

温かく迎えてくれた生徒や教職員、保護者・地域の皆様に感謝しながら、「情熱に勝る才能なし」をモットーに、健康に気を付けてがんばります。

日立・多賀中
菅原正洋

「多賀中学の名を負う我等」という校歌の歌詞のとおり、自覚をもち、礼儀正しく、やるべきことにしっかりと取り組む生徒たちです。

「学ぶ」「愛」「長持ち」を学校経営のキーワードに、全職員一丸となって、「生きる力」を身に付けた生徒の育成に尽力してまいります。

日立・大久保中
北見　裕

「気付き、考え、行動し、未来を拓く」をモットーに教職員の力を集結し、生徒・保護者・地域の明るく元気な笑顔を求め、全力で取り組んでまいります。

「ウェルビーイングの実現」を目指し、生徒も、保護者も、教職員も、地域の方々も、みんなが幸せを感じられる学校づくりに努めていきます。

日立・豊浦中
大貫弘敏

小貝ヶ浜の涼風が爽やかに小松ヶ丘をわたる豊浦中学校に赴任し、素直な生徒、誠実な教職員と毎日を過ごせることに感謝しております。一歩前へ踏み出そうとするフットワークの軽さを引き出し、他者と結ぶネットワークの充実を図り、豊浦中に集う誰もがチームワークで幸せになれるよう努力してまいります。

常陸太田・世矢小
岡部英昭

明るくて人懐こい子供たちに囲まれ、「子供たちのために」という思いをもって取り組んでいる教職員と力を合わせながら、毎日を過ごしています。

表現したり挑戦したりする場を大切しながら子供たちのよさを伸ばし、教職員一人一人の持ち味を発揮することができる学校づくりを目指していきます！

常陸太田・金砂郷小
富永佐江子

郡戸・久米・金砂郷の三校が統合し、新生金砂郷小学校となって二年目の学校です。各校の伝統を受け継ぎ、新しい校風を創り上げる喜びと職責の重さを実感しています。「希望を語り、夢に挑戦し、未来を切り拓く」児童の育成を目指し、教職員・保護者・地域の方々と一丸となって尽力してまいります。

高萩・秋山小
久保田将彦

緑豊かな田園風景の広がる高萩地区の西部に位置し、多賀山地の台地に立つ秋山小学校に赴任しました。創立一五〇年の伝統ある学校の第四一代の学校長として、気を引き締めて職務を全うしております。最高の教職員と地域、保護者に支えられながら、すべての子供たちのため、これからも全力で取り組んでまいります。

北茨城・中郷第二小
長谷部和広

創立一三〇年を迎えた伝統ある学校に勤務できる誇りとその職責の重さを感じています。「よく学び　よく遊び　よく働く児童の育成」に向けて、一〇四名の子供たちの可能性やよさを引き出し、伸ばすことができるよう、『チーム中二小』一丸となって教育活動に取り組んでまいります。

北茨城・石岡小
髙橋裕子

石岡小は、全校児童一六名の小規模校です。山と水田の緑に囲まれ、雨でも合羽を着て登校班で歩いてくるたくましい子供たちが、のびのびと生活しています。もう一つの自慢は地域の絶大なサポート力。「子供たちは、未来の石岡の宝」という地域の方の言葉を胸に、笑顔と対話で子供たちを育てていきます。

北茨城・平潟小
芳賀　隆

いり海を　かこむ緑の　山と山　しずかに清い水のこと

校歌の一節にもある風光明媚な環境で、職務に誠実な教職員とともに勤務できる喜びと、職責の重さを感じています。学校に来てよかったと思える、安心・安全で心の居場所のある学校づくりを、家庭・地域と協働で取り組んでまいります。

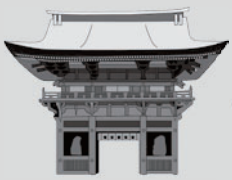
北茨城・中郷中
岩間英人

東に太平洋、西に阿武隈の山なみの豊かな自然に恵まれた、伝統ある中郷中学校に勤務できることに、喜びとともに校長としての職責の重さを実感しています。

学校教育目標「豊かな心と高い知性をもつ心身のたくましい生徒の育成」の実現に向けて、教職員一丸となり、「チーム中郷」で取り組んでまいります。

県東

鹿嶋市
神栖市
潮来市



鹿嶋・豊津小
増形　岳

水と緑に囲まれた豊津小は創立以来、常に地域と共に歩んできた学校です。町の人々の学校愛は、校舎から望める北浦湖畔より広いものがありました。感謝と同時に、職責の重さに身の引き締まる思いです。全校児童は三〇名。小規模校のよさを活かし、チーム豊津となって特色ある学校づくりに邁進します。

鹿嶋・鉢形小
髙楠香代子

「胸深く息を吸い込もう　花のように花のように　咲く日のために」これは、本校の校歌『いま　私たちは』の一節です。児童の笑顔の花があちらこちらで咲き誇る温かな学校で、かけがえのない大切な子供たちが、夢と希望をもって、学校生活を送ることができるよう、熱意ある教職員と共に全力で取り組んでまいります。

鹿嶋・中野西小
江面祐子

子供たちと笑顔で交わす朝の挨拶に活力が湧いてきます。「人を大切にする」を基本理念とし、活躍する場面や、人とのつながりを感じられる機会を多く設けていきます。子供たちや教職員が笑顔で楽しい学校生活を送ることができるよう、心の居場所・絆づくりの場となる「魅力ある学校」づくりに取り組んでまいります。

神栖・息栖小
長末正也

伝統ある息栖小学校に勤務できることに大きな喜びとともに責任の重さを感じております。

全教職員で「子供たちに愛情を」「職員の和を大切に」の二つを合い言葉として、「自分・ともだち・学校を大切にする地域に愛される児童の育成　～一人一人が輝く魅力ある学校～」を目指して全力で取り組んでまいります。

神栖・大野原小
加藤哲也

元気に校庭を駆け回る子供たちのために、私ができることは何かを、自問自答する毎日です。子供たち相互の関係はもとより、大野原小に関わる全ての「人」の力を結集し、学校経営を進めてまいります。いつでも、どこでも、どんな時も、「人にやさしく、困った時はお互い様」を体現できる児童の育成に、全力で取り組みます。

神栖・大野原西小
下川　淳

学校・地域のシンボル「緑の時計台」が見守る大野原西小学校に勤務できる感謝と喜びと同時に責任の重さを感じています。

本校の合い言葉「すすんでチャレンジ！か・つ・や・く」を実践し、子供たちの姿に学び、保護者や地域の声に耳を傾け、熱意ある教職員と共に、あたたかい学校づくりに全力で取り組みます。

神栖・波崎西小
長峰裕之

創立一四八年、児童数一四八名という波崎西小学校に赴任し、明るく素直な児童、温かな地域の方々、熱意ある教職員と出会えたことに心から感謝しております。

児童の笑顔とよりよい成長、教職員の働きがいを大切にしながら、時代の変化やニーズに対応できる改革意識をもった学校づくりに全力で取り組んでいきます。

神栖・植松小
向後範路

昭和四五年に創立され、鹿島地域の発展と共に歩み、地域に育まれ、愛された本校に勤務できることを感謝するとともに、責任の重さを感じております。

学校の主役である子供たちが「植松小でよかった」と思えるように保護者・地域と連携・協働し、子供が主役の学校づくりに向けて全力を尽くします。

神栖・やたべ土合小
根本英生

「や」やさしい子「た」たくましい子「べ」勉強大好きな子「ど」努力する子「あ」あいさつできる子「い」いつも笑顔な子　開校六年目を迎えた「やたべどあいっ子」の育成を目指す本校に赴任いたしました。

子供たちの笑顔を守り、可能性を引き出せるよう、チーム学校、みんなで力を合わせてまいります。

神栖・太田小
長谷川広

明治一八年創立、一四〇年近くの歴史が創り出した校風を礎に未来の社会を幸せに生きるための力と誇りを育んでまいります。

「ドキドキ・わくわくできる学校」を組織目標に掲げ、教育活動を自分事と捉え、児童が心と手足に鼓動を感じられる体験を進めます。「校長先生、一緒に鬼ごっこしよう」今、私もドキドキ中です。

神栖・波崎第一中
横田量壱

利根川と鹿島灘に挟まれた雄大な自然と地域産業が融合した地域で育つ、活力のある生徒たちとの出会いに喜びを感じています。生徒たちの笑顔と意欲のあふれる学校となるよう、保護者や地域と目標やビジョンを共有し、連携・協働した活動を進め、教職員が一丸となって学校づくりに取り組んでまいります。

神栖・波崎第二中
渡辺知佳子

保護者、地域の皆様の温かな思いに支えられ、素直で豊かな感性をもつ生徒たち、熱意ある教職員とともに波崎第二中学校で勤務できる喜びと職責の重さを実感しております。教職員一人一人の強みやチーム力を発揮し、「磨き合い・響き合い・高め合い　笑顔あふれる学校づくり」に全力で取り組んでまいります。

潮来・牛堀小
藤岡春雄

本校は、今年、創立二〇年目を迎えました。今年度の児童数は二〇〇名です。のどかな田園に囲まれ、野鳥がさえずる自然豊かな環境に立地しております。

「あなたが笑えば誰かも笑う」児童、職員、保護者の皆様、地域の方々も笑顔あふれるよう力を合わせて心をひとつに取り組んでまいります。

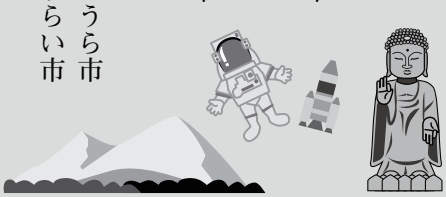
潮来・潮来第二中
石川英樹

素晴らしい生徒たちと協力的な保護者・地域の方々に恵まれ、さらによい学校とするために全力を尽くす決意を新たにするとともに、その重責を感じております。

創立以来の校訓「たくましき前進」は、今後の予測困難な未来を生き抜くために必要な資質であると捉え、全職員が一丸となって教育に当たってまいります。

県南

土浦市
石岡市
龍ケ崎市
取手市
牛久市
つくば市
守谷市
稲敷市
かすみがうら市
つくばみらい市
稲敷郡



土浦・大岩田小
永井　厚

歴史と伝統のある大岩田小学校に勤務できる喜びと同時に、職責の重さを日々感じております。素直で明るい子供たち、熱意のある教職員、協力的な保護者や地域が一体となり、「自ら学び　元気いっぱい　笑顔の学校」を目標に将来をたくましく生き抜く力を身に付けられるよう取り組んでまいります。

土浦・菅谷小
飯田博子

美しい自然環境に囲まれ、伸び伸びと学ぶ子供たち。その子供たちの教育環境を整えるために支援してくださる保護者の皆様、後援会の皆様。このように恵まれた環境の学校に着任でき、喜びとともに職責の重さを実感しております。子供たち一人一人の自己肯定感を高めるため教職員と共に努力してまいります。

石岡・三村小
早水靖雄

創立一五〇周年を迎える本校は、東に霞ヶ浦、西に筑波山、北に恋瀬川を望む風光明媚な環境の中にあります。全校生徒四八名という小さな学校ですが、小規模校ならではの機動力を活かし、協力的な保護者の皆様、地域の皆様とともに「チーム三村」で『夢と活力に満ちた楽しい学校』づくりに努めてまいります。

石岡・関川小
髙根香織

豊かな自然に囲まれた本校は、全校児童が三八名という小規模校です。保護者や地域の方々に支えられ、子供たちは元気に学校生活を送っています。「認め、伸ばし、夢にチャレンジする学校づくり」を目指し、子供たちが自分のよさを知り、自信をもって活動できるよう全職員と共に努めてまいります。

石岡・東成井小
石﨑重臣

「みつけよう　かんがえよう　やってみよう」の目標のもと、一〇五名の明るく素直な子供たちが頑張っています。あたたかく見守ってくださる保護者・地域の方々と共に、教職員も一つになって、子供たちを「認め　寄り添い　支えて」いきます。一人一人の思いや願いが実現できる学校づくりのために、全力を尽くします。

石岡・葦穂小
小吹孝雄

筑波山系足尾山麓に位置する本校は、かつて交通の要所であり歴史と伝統のある学校です。本校に勤務できる喜びとその職責の重さを日々実感しております。また、パラグライダーの浮かぶ観光地としても風光明媚な場であります。児童は勿論、携わる人々全てが幸せを実感できる学校づくりに全力で取り組む所存です。

石岡・吉生小
小倉　朗

旧八郷、美しい峰寺山が眼前に広がる、児童三八名の小学校に赴任しました。豊かな自然と同様、献身的な職員、純粋な子供たち、さらには、保護者や地域の温かな支援に、感謝するばかりです。「ありがとう」が飛び交う学校づくりを目指しています。教員になった頃の初心を忘れず、謙虚な気持ちで、学び続けたいと思います。

龍ケ崎・川原代小
長谷川幸典

「おはようございます」の元気な声を聞くと、とても穏やかな気持ちになります。本校は、今年で一三五周年を迎える全校児童七一名の学校です。本校の教育目標である「夢をもち、進んで学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成」に向け、保護者や地域と連携し、全職員協働で取り組んでまいります。

龍ケ崎・城ノ内小
内川美佳

着任してまもなく、避難訓練が行われました。校庭に整列した四四〇名の児童を前にし、改めて責任の重さを実感いたしました。

今年度の本校のキーワードは「多様性」です。一人一人のよさが発揮でき、それを互いに認められる学校、そして、全児童、全職員の笑顔があふれる学校づくりに努めて参ります。

龍ケ崎・城ノ内中
本橋　聡

城ノ内中学校に二度目の赴任となる喜びと校長としての重責を痛感しております。何事にも全力で取り組む生徒、熱意あふれる教職員、温かく応援してくださる保護者、地域の方々と共に、校訓「認め合い　支え合う」のもと、一人一人の生徒の笑顔が輝く学校を目指して、全力で取り組んでまいります。

取手・寺原小
本藤知宏

明るく元気な子供たち、何事にも全力で取り組む教職員、学校に協力的な保護者や地域の方々、多くの人々に支えられ、勤務する喜びと職責の重みを感じております。

「みんなで創ろう！笑顔あふれる　寺原小」を合い言葉に、チーム寺原小で一致団結し、全力で教育活動に邁進していきます。

取手・久賀小
幸田裕子

素直で元気な子供たち、熱意ある教職員、温かな保護者や地域の方々に囲まれて勤務できる喜びとともに職責の重さを実感しております。校訓「なかよく　ただしく　たくましく」のもと、一人一人の思いや願いを大切にして、「安心して頑張ることのできる、笑顔いっぱいの学校」を目指して全力で取り組んでまいります。

取手・桜が丘小
冨岡富美

「桜が丘」のその名のとおり、淡いピンクの桜並木に迎えられ、着任しました。

熱意に満ちた教職員、保護者、地元を大切にする地域の方々に感謝しつつ手を携えて、素直で明るい二六三名の桜っ子一人一人の声に耳を傾けながら、魅力ある学校づくりに邁進してまいります。

取手・戸頭小
水ノ江健

取手市戸頭地区の閑静な住宅街の中にある戸頭小学校。二〇数年ぶりにこの地に赴任し勤務できること、大変うれしく思うとともに、職責の重さを実感しております。

「心を一つに成し遂げる」を合い言葉に「自分の成長が実感できる学校」づくりを目指してまいります。

取手・戸頭中
松戸孝泰

昭和五一年に開校した伝統ある戸頭中学校に赴任できた喜びとともに、日々、重責を実感しています。

今年度の学校経営の合い言葉を「思いを形に」としました。可能性を秘めた生徒たち、情熱に満ちあふれた教職員が失敗を恐れずに何度でも挑戦できる、学び合う学校づくりを目指します。

取手・藤代南中
堀田将寿

「生徒が主語、生徒が主役」を合い言葉に、明るく優しい生徒たち、活気ある教職員と共に楽しい学校生活を送れることに感謝しています。

地域に愛される安心安全な学校づくりを通し、生徒の可能性を伸ばす豊かな学びの実現に向け「チーム藤南」で、全力で教育に取り組みます。

牛久・牛久小
鈴木まり子

本校は、昨年一五〇年を迎えた伝統のある学校です。子供たちは地域の方々にも大切にされて、素直で明るく人懐っこい子供たちです。今年度は、子供たちと教職員の居場所づくりに努め、笑顔あふれる牛久小学校にしたいと考えています。子供たちも教職員も保護者も地域も幸せな学校づくりに努めます。

牛久・岡田小
加藤　徹

歴史と文化のまち、牛久市。そして、伝統ある岡田小学校に勤務できる喜びと職責の重さを日々感じております。

素直で明るい子供たち一人一人の可能性を伸ばし、活躍できるよう「聴き合い・つながり・支え合う」学習を充実させ「安心と夢中」のある学校づくりを目指し、全職員で取り組んでまいります。

牛久・牛久第二小
田中久弥子

保護者と地域の皆様に温かく支えていただきながら、三二一名の素直で明るい児童、チームとして成長できる教職員と共に、牛久第二小学校で勤務できることの喜びと職責の重さを感じています。子供たちの笑顔を大切にし、「よさを認め合い共に育ちゆく」学校づくりに全力で取り組んでまいります。

つくば・栄小
三輪俊一

創立一四五年目の歴史と伝統のある栄小学校に赴任した喜びと、保護者や地域の皆様からの期待の大きさを日々実感しております。

「子供も教師も個性を生かし、共に学び続けることで互いに成長できる学校」の実現に向けて、様々な方の力を借りながら全力で取り組んでまいります。

つくば・島名小
大西秀重

創立一四六年の伝統ある島名小学校に赴任し、明るく素直な児童、熱意あふれる教職員、協力的な保護者や地域の方々とともに学校生活を送れることに大変感謝しております。

「みんなにやさしい学校」を合い言葉に、児童・教職員・保護者が幸せを実感できる学校づくりに全力で取り組んでまいります。

つくば・沼崎小
井上秀次

雄大な筑波山を望む素晴らしい環境の中、本校は創立一四八年目を迎えます。学校、家庭、地域が子供の成長を支えるパートナーとして協働し、一人一人がウェルビーイングを実感できるような教育活動を推進しながら、教育目標「夢をもち未来を創る学校」の実現に向けて、全職員で精一杯取り組んでまいります。

つくば・上郷小
松房道之

筑波の峰を望む校舎、全面芝生の校庭、学校林、広大な敷地。この恵まれた環境の中に、素直で元気な子供たちの声が、毎日響いています。

地域に愛され、支えられてきた上郷小学校の伝統を守り、子供たち一人一人が幸せな未来を開く力を身に付けられる学校、環境づくりに努めてまいります。

つくば・吉沼小
大越　茂

「すべては子供たちのために」というスローガンのもと、家庭・地域からの支援を受け、教育活動に取り組む吉沼小学校に勤務できる喜びを日々実感しております。

学校、家庭、そして地域がベストパートナーとなり、「すべての子供が安心して学び、成長をみんなで喜び合える学校」づくりに全力で取り組んでまいります。

つくば・二の宮小
高木素子

学校を支援してくださる保護者や地域の皆様に出会えたこと、自然と調和した公園や近隣の各種研究機関等の恵まれた教育環境にある二の宮小学校の経営に携われることに幸せを感じています。

子供たち一人一人が、耀きを放てるように職員と共に学び続ける校長を目指します。

つくば・茎崎第三小
小林浩子

小鳥のさえずりと緑豊かな自然に囲まれた環境に恵まれ、元気な子供たち、温かな保護者の皆様、そして協力的な地域の方々との出会いに喜びと責任を感じています。子供は地域の宝です。色とりどりに咲き誇る花々のように、子供の笑顔が咲き誇る学校づくりに教職員と一丸となって取り組みます。

つくば・香取台小
塚本　明

本校は、児童数急増により島名小学校より分離した新設校です。子供たちや保護者・地域の方々と共に新しい学校づくりを進められることは、喜びとともに身の引き締まる思いがいたします。

校訓でもある、協学・協創・協和の精神をもって、予測困難な時代を逞しく生き抜く人財の育成に努めていきたいと思います。

つくば・研究学園小
岡田太郎

令和五年四月にスタートした真新しい学校で勤務できることに、胸が高鳴るとともに新しい歴史を一つ一つ刻む責任をひしひしと感じています。子供も保護者も教職員も、みんなが幸せを感じる学校を目指し、子供一人一人に寄り添い、誰一人取り残すことなく、子供たちの可能性を最大限引き出していきたいと思います。

つくば・高山中
荒井克彦

創立七二年を迎える歴史と伝統ある高山中学校に勤務することができて光栄に思います。

緑豊かな環境の中で、素直で明るい生徒たち、協力的な保護者や地域の方々、深い愛情で生徒に接する教職員に囲まれ、「生徒も教師も生き生きと輝ける学校づくり」に向け、全力で取り組んでまいります。

つくば・高崎中
井橋憲一

笑顔で明るい子供たち、心温かく協力的な保護者や地域の皆様、誠実で情熱的な教職員とともに高崎中学校で勤務できることへの感謝と責任の重さを日々感じております。

「感動・共感・感謝」を合い言葉に、みんなが充実感や達成感を実感できる学校づくりに取り組んでまいります。

守谷・大野小
大場邦宏

創立一三三年を迎える歴史と伝統ある大野小学校に勤務できることに、喜びと職責の重さを実感しております。

小規模校ならではの「機動力」を生かし、一四九名の児童にとって、「笑顔で登校、笑顔で下校、安心して学べる学校」にするために、全職員で全力で教育活動に取り組んでいきます。

守谷・郷州小
中原卓治

「こうちょうせんせい！」と子供たちから声をかけられるたびに心が和むと同時にその重責を実感しています。校訓の「かしこく　なかよく　たくましく」とともに四〇年の伝統を積み重ねてきた郷州小。これまでの一六人の校長先生方の思いも胸に、よりよい社会の創造に貢献する人財の育成に努めたいと思います。

守谷・松前台小
古谷美樹

本校は、創立三五周年を迎えます。「ま いにち つ づくよ ま あるい え がお」を今年度の合い言葉にしました。児童が学ぶ楽しさを実感し、職員が働く喜びをもち、保護者・地域の皆様に信頼を寄せていただける、笑顔溢れる学校を目指します。恵まれた教育環境と高い地域教育力を活かして精一杯取り組んでまいります。

稲敷・沼里小
若林克治

創立一四八年目を迎える歴史ある沼里小学校に勤務できる喜びと、職責の重さを実感しております。児童のよさを認め、自己有用感を高めることにより支持的な学級集団を育むことができれば、児童の学習意欲が向上するだろうという仮説を立て、教職員一丸となって教育活動に取り組んでまいります。

稲敷・桜川小
細谷順一郎

令和三年度に三つの小学校が統合して誕生した桜川小学校は開校三年目を迎えました。霞ヶ浦に面し、その向こうには筑波山を望む自然豊かな本校に勤務できる幸せを日々実感しております。

地域の方々とともに、「児童の笑顔あふれる信頼される学校づくり」を目指し、全力投球で学校経営に取り組んでまいります。

かすみがうら・霞ヶ浦南小
中里憲一

子供たちの明るい笑顔、そして保護者や地域の皆様のあたたかさに支えられながら本校に勤務できますこと、大きな喜びとともに職責の重さを感じております。本校教育目標である「夢をもち、自らの力を高め、将来を切り拓く児童の育成」を目指し、一人一人に寄り添い自己実現を促す教育の充実に努めてまいります。

かすみがうら・霞ヶ浦北小
浅野洋子

自然豊かな環境を生かし、一八九人の児童がのびのびと学べるように家庭や地域との連携を強化していきます。児童一人一人が互いのよさを認め合い、自己有用感を高める教育活動を推進し、ウェルビーイングの実現を目指します。同時に、共に働く職員の笑顔と健康を大切にできる職場環境をつくります。

かすみがうら・霞ヶ浦中
奥沢哲也

本校は、霞ヶ浦に面した豊かな自然環境の中、二九六名の生徒と教職員が日々規律ある生活を送っています。

保護者や地域の方々との連携を大切にし、地域の特性を生かした教育活動を通して、生徒一人一人の可能性を引き出し、教職員にとって働きがいのある学校づくりに邁進してまいります。

つくばみらい・小張小
箱田俊男

歴史と伝統のある小張小学校に勤務できる喜びとともに職責の重さを実感しています。本校は少人数の強みを生かして、一人一人を大切にし、よさを伸ばす教育が実践されています。この素晴らしい教職員とともに、小張の歴史と伝統を大切にしながら、社会の変化に対応できる子供たちの育成に全力で取り組みます。

つくばみらい・豊小
原　成彦

創立一三八年を迎える歴史と伝統のある豊小学校に勤務できる喜びとともに、その職責の重さを実感しています。素直で心優しい児童、明るく熱心な教職員、温かく協力的な保護者や地域の方々に支えられ、教育目標である「自ら伸びようとする子供の育成」に向け、魅力ある学校づくりに全力で取り組んでまいります。

つくばみらい・福岡小
矢口雅義

小貝川にかかる福岡堰で春の桜のように笑顔をほころばせる八〇名の子供たちと一緒に過ごせることを幸せに感じています。子供たちの健やかな成長を願い、職員がやりがいをもって学校づくりを進めることで、「子供たちの笑顔」「教職員の笑顔」「地域の笑顔」を実現することを目指し、全力で取り組んでまいります。

つくばみらい・伊奈小
大藤正晴

私の学校経営の柱は「子供が主役」の学校です。一人一人の笑顔が輝くよう、子供にとっての最善を尽くしてまいります。常に子供に寄り添い、輝く瞬間を見逃さない教職員であると同時に、「わかる・できる・楽しい」学びを保障し、心がワクワクする教育活動を展開してまいる所存です。

つくばみらい・伊奈東小
岡田　浩

本校は統合四年目になりました。すすんであいさつができる子供たちと過ごせること、保護者や地域の方がとてもよく支援してくださる伊奈東小に勤務できたことに、とても感謝しています。「自己存在感を育む学校づくり」を目標に職員一同、職務に全力で取り組んでいます。

つくばみらい・伊奈中
小松﨑茂

創立五四年目を迎え、自然豊かな田園地帯にある伊奈中学校で、礼儀正しく可能性に満ちた五四九名の生徒と共に過ごせる喜びと責任を感じております。

「人間性豊かでたくましく生きる生徒の育成」を目指し、笑顔と感動があふれる伊奈中学校となるよう、教職員全員で教育活動に取り組んでまいります。

稲敷郡・安中小
森永佐由美

以前勤務した学校に再び着任し、保護者や地域の皆様から温かく迎えていただき、喜びを日々実感するとともに、自身に課せられた職責の重みを痛感しております。

「あんじゅうタイム」（安心して話せる充実した時間）を児童と教職員が共有し「みんなが笑顔　通いたい・通わせたいと思える学校」づくりに努めてまいります。

稲敷郡・君原小
菅澤直美

塙城跡に程近く、総合的な学習の時間には「ひょっとこ」の練習に励む子供たち。歴史と伝統ある君原小学校に勤務できる喜びとその職責の重さを日々感じております。

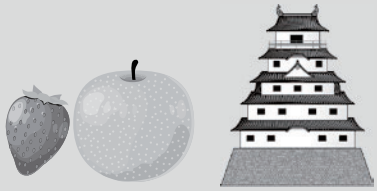
保護者や地域の方々とのつながりを大切にしながら、コミュニティ・スクールを実現すべく、誠心誠意努めてまいります。

稲敷郡・阿見第二小
小松原聡

朝出勤すると、校庭で草取りをしてくださっているサポーターさんの姿、校門に立てば、子供たち一人一人のさわやかなあいさつ、本校のすばらしさを実感する毎日です。創立四〇年目を迎える節目の年に勤務できることに感謝し、仲間の分まで走れる教職員とともに「チーム二小」として子供たちのために全力投球します。

県西

古河市
結城市
下妻市
常総市
筑西市
坂東市
桜川市
結城郡
猿島郡



古河・古河第三小
柳田清隆

今年度、四月から勤務している古河第三小学校は、創立七〇年を越える伝統ある小学校です。三五九名の「元気いっぱい」の児童とともに、毎日学校生活を送ることができ、喜びを感じています。

児童はもちろん、保護者、教職員にとっても「笑顔いっぱい楽しい学校」であるよう協働して学校教育活動に当たってまいります。

古河・古河第六小
外山　薫

明るく素直で元気な子供たち、学校を支えてくださる保護者や地域の皆様、献身的に努力する教職員。古河六小に勤務できる喜びを日々感じております。

「行かなければならない学校から行きたくなる学校」を目指し、「チーム六小」一丸となって、誰もが笑顔あふれる学校づくりを進めてまいります。

古河・小堤小
小林明子

「校長先生見てー」目を輝かせ「できた！」を伝えてくれる子供たち。可能性に満ちた子供たちの健やかな成長を支える喜びとともに、その職責を実感しています。目の前の子供たちや教職員の声を聴き、任せ、認めながら、それぞれの主体性を大切に、保護者や地域の皆様との協働で、笑顔あふれる学校づくりを目指します。

古河・駒羽根小
市村俊英

創立五〇周年を迎える伝統ある駒羽根小学校に勤務することとなり、喜びとともに職責の重さを実感しています。「すべては子供たちの笑顔のために」をスローガンに、二一五名の明るく素直な児童、仕事に前向きな職員、何事にも協力的な地域の方々と共に、笑顔あふれる学校を目指し、精一杯取り組んで参ります。

古河・水海小
橋口純子

本校のシンボルツリーである桜の木「ズーミンフラワー」と、四季折々の花々が咲く環境の中、一六五名の子供たちと、何事にも真摯に向き合う職員に囲まれ、喜びと重責を感じております。

一人一人を大切にし、「笑顔あふれる楽しい学校」づくりに、教職員、そして、地域の皆様とともに全力で取り組んでまいります。

古河・諸川小
前田隆浩

創立一五〇周年を迎える諸川小学校で勤務できる喜びと重責を感じている。教育目標「かしこく　やさしく　元気な子」の実現のため、情熱ある教職員と地域の方々や保護者と共に日々奮闘し幸せな毎日を送っている。予測困難な未来社会で生き抜く知恵とコミュニケーション能力を育てることが私の使命である。

古河・駒込小
多賀谷重豊

創立一三一周年を迎える歴史と伝統を受け継ぎ、保護者や地域の方々に温かく支えられている本校に勤務できる喜びと職責の重さを実感しております。

働きがいを実感できる職場で、情熱あふれる教職員とともに、子供たち一人一人のよさを引き出しながら、「みんなが笑顔になる学校」を目指してまいります。

古河・仁連小
石塚まゆみ

創立四〇年、本校の創立に関わった方々の思いを地域やＰＴＡの方々が受け継ぎ、温かい支援をいただいていることに感謝するとともに、職責の重さを実感しております。学校の強みを生かし、地域の宝である子供たちが「やさしく、かしこく、たくましく」成長できる学校づくりに力を尽くしてまいります。

古河・総和北中
木村貴子

全生徒で合意形成した「それぞれが考えて　うごいてみよう　きちんと振り返って　ためしてみよう」を合い言葉に、生徒も教職員もＰＤＣＡサイクルを意識し、組織目標の主体性を育んでいきます。そして、生徒たちが毎日行きたい、教職員が働きたい、保護者や地域が誇りに思える学校づくりを目指します。

古河・三和北中
大塚英克

素直で心優しい子供たちと意欲あふれる教職員、温かく協力的な保護者の皆様や地域の方々に支えられながら、三和北中学校に日々勤務できる喜びと責任の重さを実感しております。

生徒が自分の目標に向かって努力し、夢・笑顔・希望が輝く学校づくりに全職員一丸となって取り組んでまいります。

古河・三和東中
安達恵子

素直で優しい生徒、熱意ある教職員、協力的な保護者・地域の皆様との出会いに感謝するとともに、職責の重大さに身の引き締まる思いでおります。

教育目標「郷土に誇りをもち、たくましく生きぬく子」の実現に向け、「主体性と協働」をキーワードに教職員一丸となって教育活動に取り組んでまいります。

結城・江川南小
海老根健治

今年で一五〇周年を迎える歴史と伝統のある江川南小学校に勤務できることに喜びを感じるとともに、責任の重さを感じております。

本校の教育目標である「人間性豊かで、たくましく生きる子どもの育成」に向け、全職員で地域とともに歩む学校づくりに努めてまいります。

結城・山川小
渡邉孝典

「ああ～山川～山川小学校～」児童が全力で歌う校歌で迎えられた新任式。創立一四八年を迎える本校の歴史と伝統を実感し、身の引き締まる思いでした。

地域への貢献と感謝の心を忘れない児童を育成するとともに、創意工夫し、クリエイティブな学校づくりを目指し、全職員一丸となって取り組んでまいります。

結城・結城西小
松山勝洋

校庭にある本校のシンボル「くすの木」に見守られ、子供たちは毎日元気に活動しています。

明るく元気な児童、温かく協力的な保護者や地域の方々との出会いに大きな喜びを感じております。「一人一人のよさを伸ばし、自分に誇りをもてる児童の育成」に向け、教職員一丸となって全力で取り組んでまいります。

結城・結城東中
太田俊彦

結城で生まれ育った私にとって、地元である結城東中学校に勤務できることに、幸せと同時に責任の重さを日々感じています。

「みんなが耀く東中」を合い言葉に、生徒、教職員が自分のよさを伸ばせる学校づくりを進めていきます。そして、地元に誇りをもてる生徒の育成と、地域に愛される学校を目指します。

下妻・騰波ノ江小
渡邊　聡

統合から一〇〇周年を迎える伝統ある本校に着任できた喜びと職責の重さを感じております。

子供たちのために、ＰＴＡをはじめ、地域より多大な協力をいただき、心強い限りです。「よく考え、あきらめずチャレンジする児童」の育成を目指し、教職員、保護者、地域一体となり全力で取り組んでまいります。

下妻・宗道小
西野いづみ

笑顔があふれ、元気いっぱいの子供たち。遠くには茨城県のシンボルの筑波山。近くを通る常総線。毎日、活気あふれる宗道小学校に勤務できることを幸せに感じています。

「努力・笑顔・感謝」を合い言葉に、教職員一丸となって「笑顔いっぱい！チーム宗道」で、学校づくりに取り組んでいきます。

下妻・大形小
中嶋好一

学校の東側には鬼怒川が流れ、その遥か彼方に筑波山を望むことができる素晴らしい環境に恵まれた大形小学校に勤務することができ、その喜びと責任の重さに身の引き締まる思いです。

「対話・協働・笑顔」を合い言葉に学校・家庭・地域が一体となり、誰もが笑顔になれる学校づくりに取り組みます。

下妻・千代川中
小堀勝広

正門を入ると校訓「賢く　優しく　逞しく」が大きく掲げられ、広大な敷地と整えられた教育環境の中で、躍動する千代川中学校の生徒たちに誇りを感じています。

「百花繚乱　夢を力に！志は高く！」をスローガンに、地域とともに歩む学校づくりを目指し精一杯努力してまいります。

常総・絹西小
飯田靖宏

鬼怒川の西、水田地帯の高台に昔懐かしい木造の校舎が建つ本校は、児童数三八〇名の歴史ある学校です。「あふれる元気　あふれる笑顔　あふれる希望」の合い言葉のもと、児童一人一人を大切にし、未来に向かってたくましく生きる児童の育成に教職員・保護者・地域の方々とともに尽力してまいります。

常総・菅生小
間中芳子

人としても学校の長としても、私は凸凹、特に足りない部分「凹」だらけだ。でも、いつも教頭の実直さや教務の敏捷性の高さ、先生たちの勤勉さや丁寧さ、粘り強さが私の「凹」を埋めてくれる。だから自分が持ち得る力を皆に注ぎたいと思う。凸凹は組織の力だ。各々の凸凹こそが、繋がることの価値や意味をもたらしてくれる。

常総・豊田小
田地英樹

明るく素直な子供たちと熱意ある教職員、そして協力的な保護者や地域の方々に囲まれて、本校に勤務できる喜びと職責の重さを実感しています。

これからの未来を創る子供たちの笑顔があふれる学校、そして一人一人の存在価値を認め合える学校づくりに取り組んでまいります。

常総・水海道西中
倉持　訓

明るく素直な生徒たち、意欲あふれる教職員、協力的な保護者や地域の方々に支えられて、母校に勤務できる喜びと職責の重さを実感しております。本校のコミュニケーションワードを「新たな一歩を踏み出すために強い心で夢を見る」とし、生徒が成長を実感して笑顔になれる学校づくりに取り組んでまいります。

筑西・河間小
松本和能

今年度、創立一五〇年を迎える歴史と伝統のある河間小学校に勤務できる喜びと、その職責の重さを実感しております。

「学校が楽しい」「学校が大好き」と思える学校づくりを目指し、保護者や地域と連携しながら、「学び合う河間」を合い言葉に、全職員が一丸となって全力で教育活動に取り組んでまいります。

筑西・村田小
落合睦美

明るく心優しい子供たち、精一杯愛情を注ぐ教職員、力一杯応援してくださる保護者や地域の方々。この出会いを大切に『最後までチャレンジ』のスローガンのもと、一人一人の個性や力を輝かせたいと思います。本校は令和五年度末に閉校を迎えます。全職員が力を合わせ、子供たちのために全力投球で取り組みます。

筑西・鳥羽小
小菅裕子

素直で優しい子供たちと協力的で温かな保護者、地域の皆様に支えられ、この伝統ある鳥羽小学校に勤務できる喜びと職責の重さを感じております。

学校教育目標の具現化に向け児童、教職員一人一人を大切にしながら、信頼される学校づくりに全力を尽くします。閉校までの最後の一年間を輝かせます。

筑西・小栗小
鈴木利佳

本校は、今年度、一五〇周年を迎えます。歌い継がれている校歌には「ふるさとの　この庭にふたばの命　のばそうよ」という歌詞があります。本校での学びが、子供たちの夢や希望の花を咲かせ、それぞれの実が結ぶよう、子供たち一人一人が自分のよさに気付き、可能性を伸ばせる学校づくりをしていきます。

坂東・七重小
光山　明

歴史と伝統ある七重小学校に奉職する喜びと職責の重さを痛感しております。本校にとって、「コミュニティ・スクール元年」となる本年度、保護者や地域の方々との繋がりを大切にしながら、児童・職員・保護者・地域が明るく笑顔あふれ、幸せを願って前進する学校を目指し、職員一丸となって取り組んでまいります。

坂東・猿島中
蜷原哲也

一七年ぶりに大好きな伝統ある猿島中学校に赴任することができ、幸せを感じています。

本校スローガン「生徒の夢実現＝学校の目標」と生徒会スローガン「感動いっぱい　夢いっぱい　輝く猿島中」が実現できるように、生徒と教職員、地域の皆様と一丸となって「チーム猿島」で取り組んでいく所存であります。

桜川・岩瀬小
櫻井　至

歴史と伝統を誇る岩瀬小学校に勤務できる喜びと、責任の重さを実感しております。

「自分よし　相手よし　みんなよし」の「三方良し」の考えを児童・職員と共有し、「自ら学び、心豊かな、たくましい児童を育てる」学校教育目標達成のために学校・家庭・地域が連携した学校づくりを推進してまいります。

桜川・南飯田小
福原和枝

創立一五〇年目を迎える歴史と伝統のある南飯田小学校に勤務できる喜びと職責の重さに身の引き締まる思いです。

協力的な地域の皆様や保護者と教職員が連携し、「笑顔いっぱい　ワクワクみなみ」を合い言葉に、児童が自己有用感を高め、夢や希望に向かって挑戦できる学校づくりに努めてまいります。

桜川・大国小
小林詠二

創立一五〇周年を迎える、歴史と伝統のある大国小学校に勤務できることに、大きな喜びを感じております。子供たち、保護者、地域の皆様の温かさを日々実感しております。「自ら学び　未来に向かって　たくましく生きる児童の育成」を目指し、一人一人に寄り添いながら、教職員一丸となって取り組んでまいります。

桜川・樺穂小
齋藤守一

創立一五〇年目を迎えた伝統のある樺穂小学校に勤務できる喜びと、職責の重さを実感しております。本年度の組織目標を「粘り強く取り組み、多様な他者と協働できる児童を育てる」としました。学校を温かく応援してくださる保護者や地域の方々と共に「チーム樺穂」で心の通い合う温かな教育活動を推進していきます。

結城郡・西豊田小
沢木　滋

明るく元気な子供たちと温かく協力的な保護者・地域の皆様。西豊田小学校に勤務できる喜びと責任を感じております。

児童が安心して過ごせる学校、保護者が安心して預けられる学校、教職員が安心して勤務できる学校と思えるよう、保護者・地域の皆様とともに、全職員が力を合わせて取り組んでまいります。

結城郡・中結城小
仲田郁夫

茨城県南西に位置し、白菜の生産量日本一の「八千代町」にある中結城小学校に赴任しました。

子供たちから、「校長先生」と可愛らしい笑顔で手を振られると、教師になった喜びを実感します。明るく元気いっぱいの子供たち、やる気に満ちあふれる教職員、温かく見守ってくれる地域の方々と、楽しい学校づくりに努めます。

結城郡・川西小
根本亮平

毎朝筑波山を背にして登校してくる児童の元気な挨拶で一日が始まります。全校児童数一〇五名という小回りが利く強みを生かし、指導の個別化、学習の個性化を拡充しながら、「自ら学び、人を思いやることができる川西の子の育成」に向けて、保護者の皆様や地域の方々とともに全力で取り組んでまいります。

猿島郡・静小
斉藤睦子

明るく素直な子供たち、熱意ある教職員。そして、地域の学校として愛情をもち、学校を温かく支えてくださる保護者、地域の皆様。静小学校に勤務できる喜びと職責の重さを感じております。

「子供たちの笑顔が輝く学校」を目指し、一人一人を大切にした学校づくりに、全職員一丸となって取り組んでまいります。

教育振興大会

第七四回　大会宣言

茨城県学校長会と茨城県教育研究会は、本県教育の充実・発展のため、永年にわたり互いに連携しながら、研究と実践を重ね、着実にその成果を上げてきた。

子供を取り巻く環境が加速度的に変化し、「令和の日本型学校教育」を推進している今日、自然災害等の教訓を生かし、かけがえのない自他の命を大切にすることを基盤として、生きる力である「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」をより一層育むことが求められている。

そこで我々は、学校・家庭・地域社会との連携を図り、すべての子供の可能性を引き出す活力ある学校づくりに取り組み、教育の目的を実現しなければならない。

本会は、これまでの取り組みの成果を検証し、課題を明確にすることで更なる改善・充実を図りながら、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる子供の育成に情熱を注ぎ、県民の信頼と期待に応えていく決意である。

ここに、第七四回茨城県教育振興大会開催に当たり、次の事項に全力を尽くすことを宣言する。

1　安全・安心な環境を確保する。
1　学ぶ意欲を育む。
1　思いやりと感謝の心を育み、健やかな体を育てる。
1　創意ある教育活動を展開する。
1　信頼と期待に応える教職員を目指す。

令和５年１月26日

茨城県学校長会
茨城県教育研究会

再任会員名簿

No.	郡市名	学校名	名
1	水戸市	上大野小	浅野正樹
2	水戸市	双葉台小	木村真理
3	水戸市	第一中	大芝静香
4	水戸市	第五中	春原孝政
5	笠間市	笠間中	野沢宗嗣
6	ひたちなか市	勝田第一中	佐藤悦雄
7	東海村	舟石川小	塙次男
8	日立市	成沢小	熊谷智仁
9	鹿嶋市	鹿島中	坂上彰弘
10	鉾田市	鉾田北小	田口雅偉
11	潮来市	津知小	成井紀英
12	潮来市	日の出小	五喜田満

No.	郡市名	学校名	名
13	行方市	玉造小	田辺光博
14	土浦市	土浦第一中	菊地正和
15	土浦市	新治学園義務	小松崎龍太郎
16	石岡市	南小	山口裕司
17	つくば市	春日学園義務	根本智
18	守谷市	黒内小	奈幡正
19	古河市	総和南中	桑原敬明
20	古河市	三和中	石塚浩司
21	筑西市	明野中	入山克巳
22	桜川市	大和中	久下英彦
23	桜川市	桃山学園	田部井悦子

（敬称略）

令和五年度　学校長会役員

会　長　志賀　正章（水・常磐小）
副会長　大芝　静香（水・第一中）
副会長　森山　秀一（日・助川小）
副会長　辻野　敦子（神・神栖第三中）
副会長　石塚　康英（取・取手西小）
副会長　櫻井　千洋（筑・下館中）
監　事　江幡　和代（水・笠原小）
監　事　髙橋　裕子（北茨・石岡小）
監　事　方波見　諭（鉾・旭東小）
監　事　中山　弘（土・右籾小）
監　事　田﨑　一郎（下妻・大宝小）

上段右より：
櫻井　千洋　副会長
辻野　敦子　副会長
石塚　康英　副会長

下段右より：
森山　秀一　副会長
志賀　正章　会長
大芝　静香　副会長

令和五年度（一財）茨城県教育センター（教育プラザいばらき内）職員

理事長　東小川昌夫
副理事長　坂場　克身
事務局長　木村　明弘
主　幹（校長会担当）　川又　宏文
主　幹（研究会担当）　磯﨑　則男
主　幹（全連小等担当）　片岡　寿夫
主　幹（教育センター担当）　石島久美子
主　幹（校長会・研究会担当）　佐々木有香

教育プラザいばらき

ご逝去を悼む

令和五年二月二二日、結城市立結城西小学校長、伊澤博明先生が逝去されました。

伊澤先生は、常に学校全体を考え、見通しをもって学校経営をされました。また、子供たちや職員に優しく、笑顔で接してくださいました。

ここに哀悼の意を表すとともに、謹んで伊澤先生のご冥福をお祈りいたします。

編集後記

令和五年度、各校では、コロナ禍から得た多様な教育方法を生かし、新たな学びの構築が進められております。

義務教育課　副参事　山口英司先生の玉稿、新会員一三八名の皆様のお言葉を掲載し、第二五六号を発行することができました。

会員相互の情報共有を推進するための紙面づくりに向けて、広報委員一同努めてまいります。

年度始めのご多用の中、原稿をお寄せいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

（鈴木）